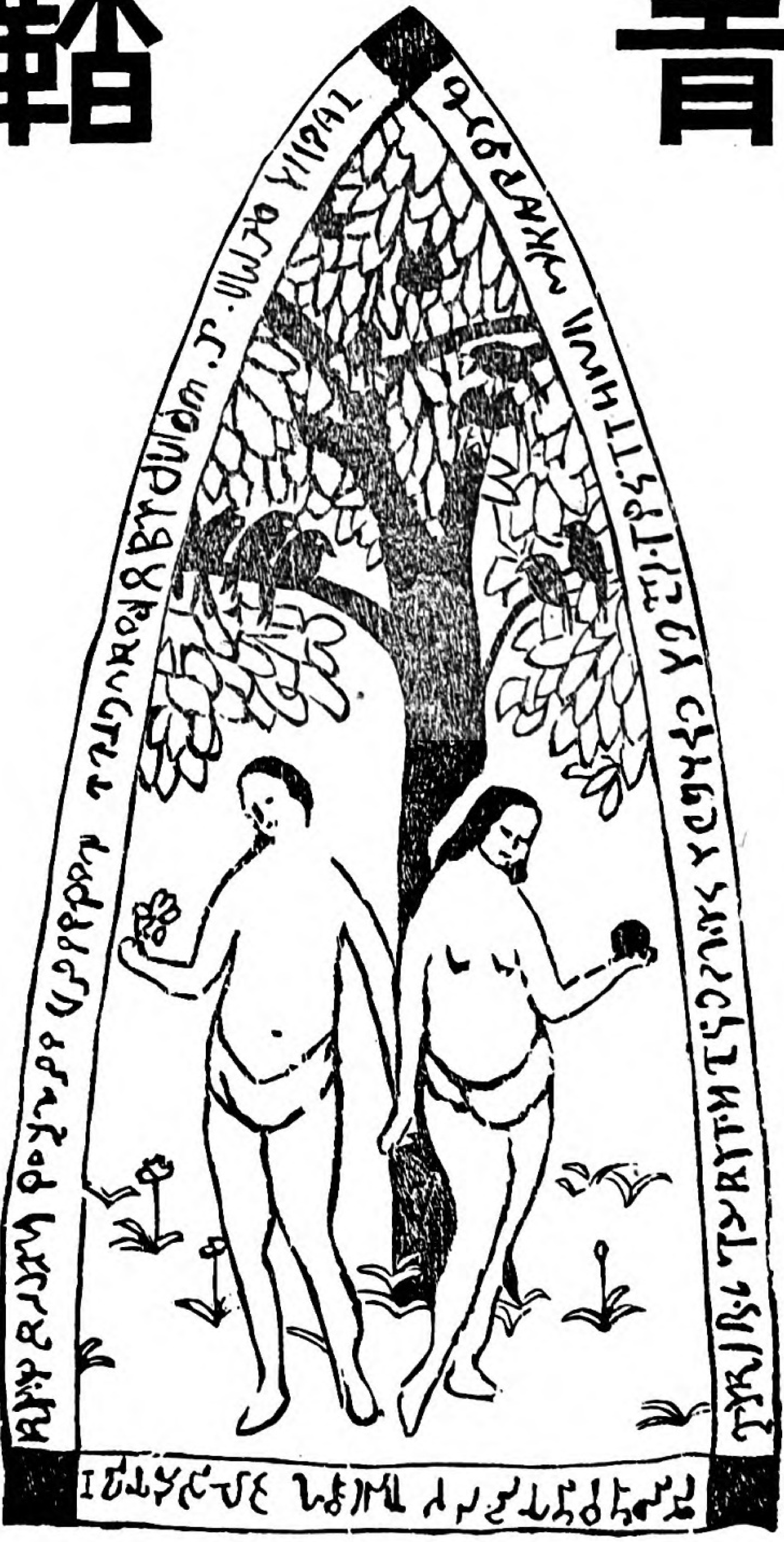
青鞜



11

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

内容

なげき（短歌）……………………一……岡本かの
三ツの夢（オリーブ、シユライネル）……五……山田わか譯
うすさむ（戯曲）……………………二一……小林哥津
九月の作の中より（短歌）…………四六……柴田かよ
少數と多數（論文）…………………五三……エンマ、ゴルドマン
自己の或る心に與ふ（感想）………六五……西崎花世

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

北の郊外より（感想）……七三……岩野清

束の間の明るみ（短歌）……七八……白川智惠

「動搖」に現れたる野枝さん（批評）……八二……らいてう

青鞜社詠草（短歌）……一〇三……三ケ島葭其他

ソニア●コヴレフスキイの自傳……一一〇……野上彌生譯

編輯室より、其他……一二〇……

青鞜社々則と同補助團規約……一二三……

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

御勸誘
御入會
乙

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十一月卅日迄會員募集をなす。

1. 甲種會員　一ヶ月會費　壹圓
2. 乙種會員　一ヶ月會費　五拾錢

四、本團の會員たらむとするものは其目的に賛同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ヶ年間納むるものとす。
（但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず。）

五、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す。

六、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ヶ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。
乙種會員には滿貳ヶ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

七、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。
但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たる事を得。

八、入會申込者は期日内に左の書式により府下巣鴨町、一一六三青鞜社内青鞜補助團宛に申込まれたき事。
會費は毎月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社内補助團宛に拂込まれたき事。（郵劵代用一割增）
但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈。

九、會費は大凡三ヶ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一〇、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一一、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、會又員多数の意見によりて變更する事を得。

大正二年九月一日

理事　保持白雨
會計主任　岩野清
係員　伊藤野枝

入會申込書

私儀青鞜社補助團の主旨に賛同し、甲種/乙種　口加入いたし候間此段申込に及び候也

大正　年　月　日

住所	姓名

拂込方法	
毎月拂	
三ヶ月分拂	
六ヶ月分拂	
一ヶ年分拂	
一時拂	

青鞜社補助團中

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なげき ——岡本かの——

かの子よ汝が枇杷の實のごと明るき瞳このごろやせて何かなげける。
かの子よ汝が小鳥のごときさへづりの絶えていやさら淋しき秋かな。
かの子かの子はや泣きやめて淋しげに添ひ臥す雛に子守歌せよ。

やふやくになだめここまでつれて來ぬかの子よまたもふりかへらざれ。

幾度か我と我が身をなだむれと聞きわけもなくなげき沈めり。

この日頃なげきのみする我が傍に婢よいかばかり淋しかるらん。

はじめよりわざはひ多き戀なりき終いかでか至かるべき。

○

くちおしやかくやさしげにしほらしき仇なる故にすてもかねけり。(以下或る金曜の夜よめる)

仇なりきみな仇なりき今宵より君がみもとに
またくかへらん。

我をのみひたすら思ふ君置きて仇なる戀にな
ぞ溺るべき。

こがねにもたまにもえやはかへつべき我ひと
りのみ秘むるおん胸。

我をのみ清くやさしく秘めたまふみ胸を何の
花もてかざらん。

きづつきて今ぞかへりぬいざいざ君いやした
まへや抱きたまへや。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

眼をとぢてやさしくも我がかへる日をままち
たまひしか許しませ君。

おそろしき夢よりさめてふと見れば君添ひ臥
せりあなあなうれし。

惡夢など襲ふひまなくわがこころ君戀しさに
滿たさしめたまへ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

三ッの夢——オリーブ、シユライ子ル——

私がアフリカの或る平野を横ぎつた時太陽は烈しく其處を輝りつけていました。私は乘つて來た馬をマイモサの木の下へ引ひて行つて其の鞍を取り、そして彼を日に燒けた叢林の中へ放してやりました。私は其の木の下へ腰を下したが暑さは猛烈にヒシ〳〵と身に迫つて來ました。見渡す限り右も左も前も後も燒土計り、そして地平線に添ふて空氣は、太陽の熱で浪打つて居ました。暫くすると私は重い睡氣に襲はれて何時の間にか側の鞍に頭をつけてしまいました。そして妙な夢をみました。

私は砂煙の上つて居る大きな砂漠の緣に立つて居るやうに思ひました。そして其の砂漠のうちに二ッの妙な物を見たやうでした。それは丁度荷物をつけた駱駝のやうでした。

一ッは首を延ばして蹲り、もう一ッは其の側に立つて居ました。私は不思議なものもあるものだと思つて蹲つて居る方を眺めました。

それは其の背に大きな荷をつけて居て、其のまはりには砂が堆くなつてゐました。まる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

で何世紀も〳〵の間其處にジツトして居たゝめに砂が吹きつけ〳〵して遂にそうなつたかのやうに見へました。私は暫く見て居ましたが、私の側にも一人の人が立つてそれを見て居ましたから私は其の人に

『砂の上にねて居る、あの大きな動物は何でしやうか』

と聞きました

『此れは女と云ふものです。男を生むものです』

と其の人は答へました

『何故、彼女はあの堆い砂に取りかこまれてあゝして少しも動かずに蹲つて居るのでせう』

と私が申ますと其の人は話し出しました。

『何年も〳〵あの女はあゝして同じ處に寢て居ました。いろ〳〵の風に吹きまくられながら。昔の昔のその昔からあの女が動くのを見た人はありません。古い〳〵最も古い書物にもあの女があゝして砂にかこまれて寢て居た事が記してあります。今我々が目前に見るあの通りな姿でゞす。けれどもお聞きなさい、最も古い書物よりも古い、記錄された、人間の最も古い記憶よりも古い、言語と云ふ岩の上や、又今は堅く乾いて砕れかゝつてゐる昔の習慣と云ふ土の上にはあの女の足跡がちやんと付いて居ます。其の時分には彼

女は、今彼女の側に立つて居るあの男と相並んで自由に歩いて居たのです。今あなたはお分りでせう。彼女は隨分永い間あゝして寢ては居ますが、けれどもその昔一度は岩の上でも丘の上でも自由に歩いて居た事があるのです』

『何故今はあゝして寢て計り居るのでせう』

と私は聞き返しました。すると其の人は

『私はこう思つて居ます。永い〳〵以前腕力が優勢であつた時代(The Age-of-dominion-of-muscular-force)に彼があの女を見付け出しました。そしてあの女が子供に乳房を含ませるため身を屈めた時、膝の子に心を奪はれて背の方を忘れて居る間に腕力は彼女の背に服從と云ふ重荷を負せてしまいました。そして衣食住と云ふ人間に缺くべからざる太い繩で其の重荷を彼女の身體へしつかりと括りつけてしまいました。其の時彼女は天を仰ぎ地を眺めましたが最早自分の望みは絶へた事を悟りました。以來彼女は此處に此の砂の上にこうして寢て居ます。あの荷を少しでも輕くする事は出來ません。それから幾時代かゝ來ては過ぎ、過ぎては來りしましたが彼女を結んでるあの繩は未だ切られないのです』

私は彼の目に何百年かの恐しい忍耐を見ました。地面は彼女の涙でしめり、彼女の鼻息は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

砂を吹いてゐます。

『彼女は動かうとした事はないのですか』

と私は聞きました。

『時々手足をふるはして居る事はあります。が彼女は賢いものですからあの荷を負ふたまゝ立ち上る事は出來ないのを知つて居ます』

『側に立つて居るあの男は何故彼女を置いて先へ進んで行かないでせう』

『そうする事は出來ません、あれを御らんなさい』

成程一本の太い繩が地を引いて其の男と其の女をつないで居ました。

『女があゝして寢て居る間は、彼はあゝして立つて、そうして砂漠を眺めて居なければならないのです』

と又其の人は申ました。

『あの男は、どう云ふわけで、自分が動かれないかを知つて居るでせうか』

『イヽエ、知つて居ません』

と其の人は答へました。そう云つて居るうちに何にか物の割れるやうな音がしたかと思ふと其の女を括つてあつた繩が切れて、彼女の背にあつた荷がころげ落ちました。そして砕

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けてしまいました。私は思はず

『どうしたのでせう』

と聞きました。

『あの女を今迄縛りつけて居た腕力が今、死にました。神經力（The age-of-nervous-force）がナイフで彼を刺しました。そして神經力は靜かに人目に見へぬやうにあの女の側へ行き機械發明（Mechanical Invention）と云ふナイフを用ひてあの女に荷を結び付けてあるあの繩を切りました。ですからあの女は今立ち上がる事が出來るやうになつて居ます』

けれど女はまだ首を延ばして目をぱッかり開ひて動かずに居ます。そして來もしない或る物を待つて居るかのやうに砂漠の遙か端を眺めて居ました。其の樣子は眠つて居るのだか目をさまして居るのだか分りません。と思つて居ると彼女の體がぶる〳〵ッとふるへたかと思ふと彼女の目に、丁度眞暗な部屋へ光線がさして來たやうに光りが出て來ました。

『どうしたのでせう』

と私は又聞きました。

『靜かになさい。あの女は氣が付いたのです。「起き上る事が出來るか知らん」と云ふ考へが彼女に起つたのです』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かうその人はさゝやきました。彼女は砂から頭を擧げました。すると其の永い〳〵間首を横へた處に凹痕がありました。彼女は地上を眺め天を仰ぎさうして側に立つて居る男を見ました。けれどもその男は砂漠の方を見て居ました。私は彼女が身體をふるはし、前足の筋を張つて膝を地に押し付けるのを見て

『あゝ、彼女は立ち上がろうとして居ます』

と叫びました。けれども彼女は唯横腹をふくらましたゞけで又もとのまゝに蹲つてしまいました。が彼女は頭だけは擧げて居ます。私の側に居た人は

『御らんなさい、彼女は大へんに弱くなつて居ます、彼女の足はあまり永く蹲つて居たので壓潰されてしまいました』

と申ました。私は彼女が汗をぽた〳〵落しながら踠いて居るのを見て

『あの側に立つて居る男が助け起してやるでせう』

『彼は彼女を手傳ふ事は出來ません。彼女は彼女自身の力で立たなければならない。充分強くなる迄一人で踠いて居なければならないのです』

『それなら、少くともあの男は女が立ち擧るのを妨げてはなりません。が御らんなさい、あの男は動き出しました。そしてあの男と女を繋いである繩をひつぱつてあの女を引き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

づります』

『彼は女の身の上に起つた事柄を了解して居ないのです。彼女が動くと彼等をつなひである繩がつれるので彼は己の身體に痛みを感じるのです。そして彼女から離れて行うとする。いつかは彼が凡てを理解し、彼女のして居る事を知る日が來るでせう。彼女はもう一度よろめきながら立ち上がつて見なければならない。其の時こそ彼は彼女に接近し同情をもつて彼女の目を見るでせう』

女は首を延しました。汗は玉となつて地に落ちます。そして一寸計り地から身を起しましたが又もとのやうに蹲つてしまいました。

『オー、彼女は未だ弱すぎます。彼女は未だ歩けません。彼女が歩けるだけの力を取り返す迄には永い月日を過さなければならないでせう。あゝ彼女は永遠に動かれないでせうか』

と私が叫びますと私の側に居る人が

『だが、彼女の目の光りを御らんなさい』

と申しました。女は又よろめきながらそろ〳〵と膝で立たうとして居ました。

私は目が醒めました。思はず見廻しましたが西も東も燒けた叢林計りの不毛な砂漠です

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

蟻が赤沙の上を往つたり來たりして居ました。暑さは依然と猛烈に地を煎て居ました。私は木の斑な枝の隙間から青空を見上げました。そしてせいのびしました。それから今見た夢に付いて考へて居ましたが又睡くなつて鞍を枕に眠りました。そして又夢を見ました。

私は或る砂漠を見ました。其處へ一人の婦人が出て來て、暗い川の縁へ行きました。其の川の堤は非常に險しく高いものでした。其處で彼女は長い白い髭のある。捻くれた杖を持つて居る老人に出逢ひました。此の老人が持つて居る杖には道理と云ふ字が書いてありました。老人は婦人に向つて何を望むかを尋ねました。すると婦人は

『私は女です、私は自由の國を探して居るのです』

と答へますと老人は

『其はあなたのすぐ前にあるではないか』

と申ました

『私には暗く流れて居る川と、險しい高い堤と其の堤の所々が切斷されて砂が出て居る處の外は何にも見へません』

『川の向ふは』

『何にも見へません。けれど、時々私が目に手をかざして見ますと此の川の向ふに木や小

山があつてそして其處に日があたつて居るのが見へます』

『それが自由の國です』

『どうしたら彼處へ行かれるでせう』

『彼處へ行く道は一つあります。たつた一ツです。勞働と云ふ堤を下りて行つて、苦難と云ふ水を渡るのです』

『其處に橋はないでせうか』

『無い』

『水は深いでせうか』

『深い』

『川床はすれて居るでせうか』

『すれて居ます。だからあなたは滑るかも知れない。そして溺れるかも知れない』

『今迄に此處を渡つた人があるでせうか』

『渡ろうとした人はあります』

『一番安全な渡り場所は何處だか痕跡があるでせうか』

『其は此れから作らなければならないのです』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女は目に手をかざして川の向ふを見て居ましたが
『私は行きます』
と申ました。すると老人は
『行くなら、其の砂漠で着て居た着物を皆脱ぎ捨てなければならない。そう云ふ装をして居ては其の着物のために水の中で溺れてしまいます』
と云ひ聞かせました。婦人は今迄着て居たいたんで穴だらけになつた古い輿論のマントルを喜んで脱ぎ捨てました。それから永い間大切にして居た帶を腰からさると其の帶の下から蛾が雲のやうに飛び出しました。それを見て居た老人は又口を開き
『あなたの足から其從屬の靴もお脱ぎなさい』
婦人はそれも脱ぎました。そして體にピツタリつひて居る白い着物一枚になつて立ちました。
『それだけは着て居て宜しい、自由の國の人もそれだけは着て居る。其の着物は水に這入ると浮いて居て、そしてよく游ぎます』
私は其の純白な着物の胸に眞理と書いてあるのを見ました。それは外の着物が其れを蔽ふて居ますから、めつたに日光に輝された事はありません。老人は又

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『此の杖を持つてお行きなさい。しつかりと握つて御居でなさい。もし其の杖があなたの手からすべり落ちれば其れはあなたが溺れる時です。あなたが水の中を進んで行く時歩かうと思ふ處を先づ其の杖で探つて御らんなさい。杖が川床をさわらないのに其處へ足を入れる事は斷じていけません』

『ハイ、分りました。では私は參ります』

と婦人が云ふのを老人は

『否、未だいけない。あなたの胸にある其れは何です。』

と聞きましたら婦人はだまつて居ました。

『其の胸を開けて、私にお見せなさい』

婦人は云はるゝまゝに其處を開けました。すると其處に小さいものが黃色いちゞれ毛を婦人の胸へ押しつけて乳を吞んで居ました。其の手足は婦人の體へしつかりと絡めて居ました。

『其れは何です。彼は何をして居るのです』

と老人に問はれて婦人は

『彼の顏を見て下さい』と答へました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『彼を下へおろしなさい』

と老人は命令するやうに云ひましたら婦人は

『彼は呑みながら眠つて居ます。私は彼を自由の國迄連れて行きます。彼は永い間私の子供でした。私は何處へでも彼を連れ歩いて居たのです。自由の國へ行つてから彼は一人前の人になるでせう。そして私共は共に歩く事が出來ます。彼の大きくなつた白い翼は私を庇護して呉れるでせう。砂漠にこうして居た間彼は廻らぬ舌でたつた一言愛情と云ふ言葉を私にささやきました。私共が自由の國へ行つた時彼は友情と云ふ言葉を云へるやうになると私は想像して居ました』

と云ひましたけれども老人は矢張り

『彼をお下しなさい』

と申しました。

『私は彼を連れて行きます。私は片手で彼を抱へ片手で水と戰ひます』

と婦人は云ひ張りました。

『彼を地上へお置きなさい。あなたが水の中へ行くとあなたは彼に心を奪はれて戰ふ事を忘れます。彼をお下しなさい。あなたが彼を離れても彼は死にはしない。彼は彼の翼を擴げて飛び出します。彼はあなたより先に自由の國へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

擴げて飛び出します。彼はあなたより先きに自由の國へ行くでせう。自由の國の岸へ着くと上から手を延して着いた人を助け引き上げて呉れるものがありますが其は愛の手です。彼が其處へ着いた時にはもう一人前の人です。子供ではありません。あなたの胸に抱かれて居たのでは彼は育つた事は出來ません。彼を成長させるために彼をお離しなさい』

婦人は子供の口から自分の胸を引き離しました。其の時子供は婦人の胸を嚙みましたので其處から血が流れて地面迄充たゝりました。婦人は彼を下しそして傷を蔽ひました。それから彼の女は屈んで彼の翼を撫でゝ居ましたが忽ち彼の女の髮が雪のやうに白くなりました。若い彼女は急に老婦になりました。彼女は遙か岸の方へ進んで行きましたが、立ち止まつて

『何のために私は今迄誰も行かなかつたあの國へ行かうとするのでせう。オー、私はたつた一人になつた。オー、私は全く一人になつた』

と云ふのを、道理なる老人は其を制して

『靜かになさい。あなたはあの音を聞きませんか』

云はれて彼女は熱心に耳を傾けました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『オー人の足音が聞へます。何萬何億と云ふ足音が聞へます。それが此方へ來るやうです』

『あれはあなたの足跡を踏んであなたに從つて行かうとする人達の足音です。彼等を導いてやりなさい。水の緣迄足跡をつけて彼等のために道をつくつておやりなさい。あなたが今立つて居る所は忽ちあの人達の足に踏まれて平かになるでせう。あなたは蝗蟲がどうして小川を渡るかを知つて居ますか。始め一疋が川の緣へ下りて來るが其は流されてしまいます。それから又一疋、又一疋と幾疋も〳〵下りて來て遂には炊等の死骸がたまつて橋が出來ます。後から來るものは其の橋を渡つて安全に目的地へ達する事が出來る』

『けれど、始めに下りて來たもの、うちの幾ッかは流されてしまつて人にも知られなければ、又その死骸が橋にもならないのですね』

『流されてしまつて人にも知られない………それがどうしたと云ふのです』

『それでどうなるでせう………』

『川の緣迄道をつくるではありませんか』

『川の緣迄道をつくる………私共の死骸で出來た橋を誰が渡るのでせう』

『全世界の人類が！』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と老人は叫びました。

婦人は老人から受取つた杖をしつかり握りました。彼女は暗い道を辿つて川の方へ下りて行きました。

私は目を醒しました。午後の黄色い日光が私の周圍を流れて居ました。今落ちんさする太陽は乳草（milk bush）の葉を光らせてゐました。私の馬は私の側で靜かに草を食んで居ました。私は起きかへつて赤い砂の上を往き來する數千の蟻を見て居ました。午後は餘程涼しくなりましたから私は出かけやうかと思ひましたが未だ寢足りないので、もう一度眠つてしまつひました。そして又夢をみました。

私は或る土地を見ました。其の坂道を大膽な婦人と男子が相携へて歩いて居ました。彼等は互に目と目を見合せて、少しも恐れません。私は婦人同士も手に手を引いて居るのを見ました。私は私の側に居た人に

『此處何處ですか』

と尋ねました。

『此れが天國です』

と彼は答へました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『其の天國は何處にあるのですか』
『其れは此の地球上にあります』
『いつですか』
『未來です』
と彼は答へました。

私は起き上りました。私は夕日につゝまれて居ました。太陽は低い山の頂上にかかつて居ました。快き涼しさがすべてのものを訪れて居ます。蟻は除々と其の巣へ歸つて行きます。私は靜かに草を毟つて居る私の馬の側へ行きました。此の時太陽は山の蔭にかくれてしまひました。けれども彼は次の日にも必ず登つて來る事を私は知つて居ます。(完)

山田わか譯

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

うすさむ

―小林哥津―

人名

お粂　女房
おきん　お粂の友達
孝二　おぬいの息子
おぬい　お粂の姉
みち　女中
信介　若い者
久七　せり呉服

時

今―、しみじみと秋らしい氣のするある晩方。

所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さかり場を裏手へ曲がつた新道にあるお榮の家。

靜かに幕があく。——

お榮の家の茶の間、正面少し上手によつた方に中ガラスに細くふちを殘して白い紙をはつた障子が四枚立つてゐる。それからすぐにすぢかいの樣にせまつて押入がついてゐるその次は半分開けかけた唐紙で、そこから二階へ行く梯子段の裾が見えてゐる。下手は障子から壁を經てゝ臺所へ通ふ出入口がある。——そこは未だ夏のまゝな麻ののれんが下つてゐる。障子の前には長火鉢が置いてある。その傍にはお茶盃やら、お菓子皿やらが散らかつてゐる。壁にそつて新しい簞笥、鏡臺それからチーク造りの小形な女机などがある。

障子をあけるとせまい椽側で、それは下手へ玄關の方につゞいてゐる。椽の向ふにはせまい庭があつて、すぐ隣のはめ板が見えてゐる。庭には、都會の少ない空地にふさわしいやうな小なりつくつた杉の武者立ちなどがある。

長火鉢をはさんで、おきんとおぬいとが座つてゐる。おぬいは長煙管で煙草の火を吸ひ付けてゐる。おきんは片手を懷中に突込んで、片方の手では無心に自分の鬢の毛にさわつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てゐる。久七は二人とは少しはなれたところにキチンと座つて巻煙草を吸つて新聞を讀んでゐる。そのそばには呉服物を入れた大きなつゝみが置いてある。

時は日くれまぐれの、何となく落付かない時分で、障子の上の方には未だ白晝(ひる)の影が薄あかるくさしてゐる。けれどもそこの部屋には電氣が灯いてゐて、夜の光りと晝の光りが、何だかとけ合ないでこの部屋中の心持をあわたゞしくさしてゐる。――この部屋は一體に壁が白茶色なのやら、柱や障子の棧の木が生新しいのやらで、よくは片付いてゐるけれど、どこかぶまなごたついたところが見えてゐる。椽側から見える向ふのはめ板、色物の寄席の裏なので、今丁度、席のあく人よせの太鼓を打つてゐるのがきここて來る。――近いところで打つてゐるやうな又遠いところで打つてゐるやうな、ごくむらな重い響。――

おぬい。（四十三、年よりは老けてゐる。紺色の ぬけた絣に細ゑりの二子 の半てん、洗い髮を櫛卷きに小さく結つてゐる。話のつゞきをつゞけて）――ぢや途中でなんでございますね。

おきん。（みがきのかゝつた、つやゝかな顔だち二十四五、粋なつくりで 格子縞のセルの單衣、半巾帶を無造作にしめてゐる。前髮を割つた總髮に根の低い銀杏返し、しやつきりとした聲音）えゝ、そうなの。後から

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おきんちやんぢやないつてぶたれてびつくりしましたよ。

おぬい。まあ思ひがけなくお逢ひなすつたんですね。

おきん。ほんとにね——來るともなくこう不意に來て了つて。まつたく思いがけないんですよ。

おぬい。お榮も絕えず御噂はしてゐるんでございますよ。——もうづゝとこつちへ歸つておいでなさるの。

おきん。えゝ、もう私東京を一足も出るのはいやですね。——この頃は川向ふにゐますの。

おぬい。川向ふつて申しますと。

おきん。請地の家にね、行つてゐますんです。

おぬい。ぢや江戶町のお家は——

おきん。妹とお母さんで、どうやらやつてゐますの。

おぬい。さよですか——でもおきんちやんは結構な御身分でよござんすね。

おきん。何ですか、いゝんだか惡いんだか解りやしません(間)だけど姉さん、お榮さんすつかり樣子が違ひましたね。

おぬひ。心持もせんとは大違ひでせうよ。

おきん。驚くほど變りなすつたわ。ちよつとの間だと思つてますけど、もうかれこれ

おきん。驚くほど變りなすつたわ。ちよつとの間だと思つてますけど、もうかれこれ半年も逢ひませんでしたからね。
おぬい。そばにゐてもあの當時は、あの娘の心持がだん〳〵に變つて行くのが見えたんですよ——そりや隨分色々にね。
おきん。私もね眞實のところは解ないで、只新聞の噂でせう、うそかほんとうか、ちつとも見當が付かなかつたんです。
おぬい。——何しろ思ひがけないことなんですからね。あの娘に姉さんいよ〳〵もう看板はひ丶ちやつたよつて云はれました時にや私でさえ冗談だと思ひましたからね。
おきん。お榮さんだつて行く末を考へるにはまだ早いぢやありませんか——
おぬい。——まあ丶れにしても、おふくろのことを見てゐましたから何となく心細かつたんでございませうよ。(おきんからふつと目をはなして久七の方を見る。——や丶長い間) 番頭さんほんとにお氣の毒ね、もう日が暮れるつて云ふのにどうしたんでせう。
久七。(三十前後前垂がけの男)い丶え、どういたしまして。
おきん。——髮結つて、お湯へ行つてちきかへるから先へ行つて丶お呉れなんて云ふんですもの……そんなところはせんとちつとも變らないわネ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おぬい。いやな人ですこと――これでもの丶二時も待つてゐるんですよ私、番頭さんも隨分待ちなすつたでせう。

久七。――今お出かけになつたと云ふ後でございました。――しかし、又明日でも私は上ると致しませう。

おきん。きつと髪結さんで待つてゐるんですよ。

久七。――私はどうも運が惡くつていつでも御留守でございます。

おぬい。ほんとに皆さんにお氣の毒ですね。ぢや番頭さんもあしたでも又よつて見て下さいましよ。――ほんとにお氣の毒でしたね。

久七。い丶えどういたしまして。ぢや失禮いたします。どうぞ御新さんによろしく。

おぬい。さよなら、すみませんでしたねえ。

おきん。さようなら――ごめんなさいよ

久七は臺所の方から行つて了ふ。もういつの間にかすつかり夜になつて了つて、電氣がやうやくはつきりと光つてゐる。人よせの太皷ももう聞えない――

臺所の方ではなにかしきりに立働いてゐるみちの赤い帶が時々、のれんにさわつてゆらいでゐる。木と木がふれ合ふやうながする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おぬい。ほんとにどうしたんつて云ふんでござんせう――（茶箪笥の上の目覺し時計をのびあがつて見る）ヽおやもう七時に十分か間がないんですね。（きゝとれない程に聲を落して）困つたね。――

おきん。（相手の心持を讀まないではゐられないと云ふ樣な鋭い目付で）何か御用があんなさるんでせうに――いけませんですね。

おぬい。（えり元をかき合せなどしながら）ちよいと話があるんでござんすけど――家の方も氣になりますから、又晩にでも出なをして來るとしませう。

おきん。折角でもこれまで待つてゐらしつたんですもの、もうちつとお待ちになつたら。

おぬい。日暮にならないうちと思ひましてね――だけど又まゐりませう、一たん歸へつて置かないと、家の方もいけませんから。

おきん。お一人で今でもあそこにゐらしやるんですか。

おきん。（淋しい笑を口元にうかべて）えゝ一人でね、相變らず。この二三日は總領がゝへつて來てゐますんで、少しは活氣もござんすけど――

おきん。孝ちやんつて云いましたね。もういゝ若い衆さんでせうね。

おぬい。はあれもゝうあなた生意氣ざかりになりましてね――中々世の中には苦勞が絕えませんね（淋しい笑い方）よく／＼私なんか貧乏性に生れついてゐるんでござんすよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おきん。どういたしまして、立派な息子さんがゐらしやるんですもの、これからが御樂ですよ。

おぬい。さあね、如何なもんですか。

まあごゆつくりなさいまし。

おきん。やつぱりお歸へりになるんですか。――お近いんだからよござんせうに、それに孝ちやんがゐらしやるなら、なほさらですわ。

おぬい。まあちよつと歸つてまゐりませう。(間) おきんさんまことに恐れ入りますがお榮が歸つて來ましたら、今夜は出ないやうにそうお仰つて下さいましな。

おきん。はいかしこまりました。――ぢや又のちほど

(二人立ち上つて障子をあける。臺所からみちが出て來る)

みち。(十四五の少女) お歸りなさるんでございますか、折角のところをいけませんでございますね――

おぬい。おみつさんさよなら。もうどうぞおきんさんそのまゝ。

おきん。えゝえ。

三人とも玄關の方へ行く。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

格子の鈴の音がする。おきんとみちと「さよなら」と云つてゐるのがきこえる。――

おきん、みち登場。

おきん。もうすつかり通りにや夜見世が出たやうですね。

みち。さよでございますね。夜見世もゝうこれからは淋しうございませう。

おきん。やつぱり暑いうちの方がにゝやかでせう。

みち。そうでございますよ。

おきんは元の火鉢の前へ歸へる。みちは火鉢に炭をついだり、お湯をさしたり、おきんのぬぎ捨てゝ置いたコートを袖だゝみにして押入の前に置いたりする。さつき久七の讀んでゐた新聞を取つて來ておきんの前に置く。そして臺所の方へ退場。おきんは新聞を讀みはじめる。――

舞臺には何の音もない長い間シンとしてゐる。

ふつとそのうち、となりの寄席かららしい端歌の三味線がきこえ出す、ほんの一くさり、浮いた調子がさえざえと流れて行く。――ちきその餘韻が消えて了ふ。おきんは無言つて新聞を讀みつゞけてゐる。――格子の方で鈴がなる。

みち。(臺所から)お歸へりのやうでござんすね――

おきん。(新聞を下に置いて)そうかしら。(障子があくお榮登場)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お榮。（ォルの上に班い縞の羽織、水色のてがらが目立つてくつきりと黒い大丸髷の中に光つてゐる。もつくりした肩付の二十五六の女、にこやかな洗練されたあるつやを帶びた聲）お待遠う樣。——

おきん。（座つたまんまお榮を見上げながら）お待遠うもないもんだわ——私もう歸つちやをゝかと思つたよ。

お榮。御免なさいよ、——髮結さんがこんでね、梳手が梳いちまつたもんだから歸へるにや歸られず、ほんとに困ちまつたわ——

みち。おかへりなさいまし。（お榮のお湯の道具なぞうけ取つて）伊勢濱が御出かけになるとすぐまゐりましたんでございますよ。だけど、又明日あがるつて、さつき方歸つて行きました。

お榮。そうかい、——ほんとにおきんちやんすまなかつたね。そこらへ何か食べに出かけませうか。

おきん。そうね——だけど駄目よ、やつぱり何か用で今しがたまで待つてゐた竹町の姉さんが、又後からつて歸へりなすつたから。

お榮。姉さんが——何の用なんだらうね、待つてゐなきやあならない事なんだらうか。

おきん。何か相談だつて——もうぢき見えるだらうからそれをすませて私と一共に外へお出な、私の方はおそくつたつて平氣だよ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お染。おやさうしようか。(何かしきりに考へてゐるやうに)何の用なんだらうね。四五日こつち逢はないもんだから。

おきん。孝ちやんが歸へつてゐるつて、まだ、あの人年が明けないの。

お染。年は明いてるんだけど今御禮奉公たつてね、まだ親方のところにゐるんだけど——歸へつてゐるやうかい。

おきん。あゝこの二三日歸へつてゐるつて。——(ふつさあることを思い出して、薄笑いながら)云ふのを忘れちやつたけど今度は又御目出度う。

お染。(同じく薄笑い)あら——いやなおきんちやん。

おきん。全くさつきも姉さんと話するのさ、お染さんがかうならうとは思いもかけなかつたつてさ——

お染。そんなに不思議なの——まだ〳〵びつくりすることがあるわ、春になれば私だつて店をもつて、ほんとに商人の御女房さんになるんだもの

おきん。へーエ、見世を持つの。

お染。あ、御店から分けて下さる筈なのさ。

臺所の方で「今晩は」と云つてゐる、男の聲がする。みちが「おや信さん」と云つてゐる。信介がのれんを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

分けて出て來る。

信介。（若い手代、手紙を手にもつてゐる）今晩は、――いやにお涼しうございます。

お榮。今晩は。さあこつちへゐらしやい。

信介おきんにもあいさつをする。おきんも無言つて頭を下げる。

信介。番頭さんから御手紙でございます。――

お榮。どうもはゞかり様ですね。あの未だ夫は歸らないやうでございましたか。

信介。へエ、これにも書いてはございますが、今晩、旦那と、御一緒にちよつと、寄合へ御まわりになりまんで、着物をとりに上りましたんでございます。

お榮。あゝそうでしたか、御苦勞さまですこと。（手紙をよむ）みちや、みち。

みち。（登場）はい。

お榮。二階へ行つてね、簞笥から旦那の羽織とセルと、それから足袋もそろへて信ざんに渡して呉れ。

みち。はい、帶もでございませうね。――

お榮。あゝそう、前かけも入れるんだよ。

みち。はい（二階へよつて行く）

お榮。おそくなるやうですか、かへりは？

信介。いかゞでございますか。よく存じません。

みち二階風呂敷つゝみをもつて下りて來る。

みち。お世話様ですね。ぢやこれをおもちなすつて下さいまし。

信介。それぢや、御免ん下さいまし。さようなら、——あの別に御用はございませんか。

お榮。えゝ別に、どうも御苦勞様御奥へよろしく。

信介、みち退場。

お榮。みち、お前、御飯を食べたら御湯へ行つて御出でよ。いゝから。

みち。（臺所の方で）はいありがとう存じます。

おきん。寄合だつて、

お榮。あゝ、おそいだらうよ。

おきん。折角逢ひたかつたのにね。

お榮。これからちよい〳〵お出でなさいよ、私も淋しいから。

おきん。あゝ一遍來ればね、又來ますよ。

お榮。私も行つていゝ？

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おきん。どうぞね、請地で、松島の寮つてきけばすぐ解るから、來て頂戴よ。
お榮。この頃はどうしてゐるの。
おきん。(笑いながら)すつかり退屈してゐるの、何か面白いことはないかねえ。
お榮。おとなしくしてゐると見えるのね。今度はこつちからお祝いに行くやうにならなくつちや。
おきん。どういたしまして、――(間)

みちが臺所から出てくる、「行つてまゐります」と云つていて又退場、話がぶつつりと切れる。――

おきん。――だけどお榮さん――あの鳴らした東玉のおさまりにしちや、ちつとあつけなすぎるね私に云はせりや。
お榮。何に、おきんちやん、お祝ひやらおくやみやらつて云ふとこなの。――
おきん。別におくやみて云ふわけもないけど、只そう思ふてことさ。――
お榮。私だつて考ひちまつたんだも、――お母さんの二の舞は心細いからね。
おきん。だつてお前さんは未だ若いぢやないか――私どうしたつてんだろうと思つてたよ。
お榮。他(はた)ぢやそう云ふけど、私の身にもなつてごらん、――全くいつまで水商賣は淋しいからね。

おきん。――さうかね、そんなものかね。私や又、その水商賣がして見たくつてね、こないだうちは無暗に藝者にでもなつてみたくつてせうがなかつたことがあるの――何しろかう退屈なのが厭でね。

お桊。いやなおきんちやん、お前さん見たいな人がほんとうの親なかせつて云ふんだね。仕方がなしに私の様な境界ならしらないこと、何がよくつてお前さんがそんなことを云ふかと思ふと解らないね。

おきん。この頃はもう、それもいやになつちまつたわ、――まあ一たん下げた看板なら仕方ないけどよくあきらめたねえ。

お桊。だけど私そう思ふよ、これからが何だか私のほんとうの世の中のやうにさ……。

おきん。今迄は夢でしたかね――(思ひ出し笑い)――お前さんの浄瑠璃を一晩きいて來て、氣が狂がつて、簞笥の上へのつて義太夫の眞似をしたつて男があつたけね――

お桊。――よしてお呉れ、つまらない。

おきん。まだあるわ――

お桊。(暗い顔)およしつてばさ。

おきん。そんなに厭なの、よすわ、よしませうね。だけどほんとうにお前さんこゝのに全

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

く惚れちつたらしいね。

お榮。嘘、嘘だわ

おきん。(低い聲を立てゝ笑ふ)もうよさう、たまに逢つといていやがらせを云ふことはないわ。

お榮。おきんちやん、他人(ひと)のことより、お前さん、どうするつもりなの。やつぱりあの人と一緒にゐるんでせう。

おきん。あゝ、どうするんだかね、明日(あした)のことは解らないね。

お榮。だつて笑つてばかりはゐられないからね。まつたく。――

格子の鈴の音がする。

けれど舞臺の人々はそれに氣がつかない。――寄席から二挺三味線が、何か淸元のやうなものをひつてゐるのが、ひゞいてくる。そして時々若い女の聲で歌ふのもきこへてくる。

おきん。私なんか、また若いと思つてるから――

障子が開く――お榮とおきんが一共にそつちをむく孝二が立つてゐる。

お榮。あゝ孝ちやんかい、みちだと思つて居たもんだから。――

孝二。(額のせまい、色の靑い二十一二歲の男、悲しげな、たよりなげな弱い目をしてゐる。五分づまりの着物で、職人と云ふことがすぐ物腰にあらはれて見え。)今晩は、御無沙汰をしてゐました。

おきん。今晩は、――孝ちやんが…

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おきん。今晩は、――孝ちやんがまあ大きく、――厭だ大きくなんていゝ若い衆になるんなすつたわねえ。
孝二。おきんさんでゐらしやいますね。どうも久ばらく。
お榮。さつきはお母さんに留守で、大變失禮しましたよ。とんだお氣の毒をして了つてね。
孝二。いゝえ、どうしまして。
おきん。ほんとうに待ち疲れたつて、お仰つてゞせう。
孝二、いゝえ――
お榮。何か相談だつて云ふぢやないか。どんな事なの、おきんちやんだからかまわないよ。
孝二。えゝ何ちつとごたついてゐるもんすから。――
おきん。さゝこゝへゐらしやいまし。
ふいと立つて机の方へ行く。そこに座つて本を出して見てゐる。
さつきからの三味線の音が、まだきこえてゐる。ちつと、二の上つた曲まわしで、しんみりした調子。――
孝二。(おきんの方へ)いゝえどうぞそのまゝゐらしつて。
おきん。何勝手なんですよ。

お榮。一體何のごた〳〵なの。

孝二。(低い沈んで聲で)私も實はこの二三日家へ歸つてゐるんです。

お榮。そうだつてね、どこか身體でも惡いのかい。

孝二。何、そんなこつちやないんです。少し親方の方をまづくして了つたんで……。

お榮。何だつてね――。

孝二。(だんだんに低い聲で)ちつと話しにくい筋なんで大きに、お母さんも弱いてゐるんで――

お榮。まあ話してごらんよ、場合によれば、私の方から親方へ詫びを入れて上げやうぢやないか。え、

孝二。私も今度は親方のところへは何つて云つても歸らないつもりなんですが。……

お榮。まあどうしたつて云ふだよ、話さないぢや、何が何だか、解らないぢやないか。

孝二。その――實は、私が惡いことは惡いんですけど、あんまりてば親方が因ごうなんです。

お榮。ぢや親方と喧嘩をしたつて云ふんだね。

孝二。いゝえ喧嘩ぢやないんです。親方の身になつたらさぞ私が惡いでせうけど、何にもあんなにまでせずともよさそうだと思ひます。――

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お榮。どうもちつとも解らないね、事の原因は一體何なんだよ。

孝二、(低くながらはつきりした調子で)私が出たのも實は内密でやつちやつたんで——親方に呼びつけられて、さんざぼら小言を食つた晩、そのまゝ家へ歸つちまつたんです。それだけならまだいゝですけど、店のお雪さんがそのあくる晩に又馳け出しちまつたんで——

お榮。お雪さんが——それだつてお雪さんと、お前とは別な話なんだろう。

孝二。(きゝされない程に)いえ、お雪さんは私のところへ來てゐるんで。

お榮。エ、、——(微笑)そうかい、それで解つたよ。そうなの——

おきんは机によりかゝつて、紙をさいてはかんちよりを造らへてゐる。たけど耳はこつちの方の話にかゝしてゐる。ふつとそつと、そつちへ目をやつたお榮と顔を見合せてうすくほゝ笑む。

孝二。——それで實に困つてゐるんですが、どうもお雪さんが、家へは死んでも歸らないと云ふし、親方の方でも、お雪さんが家にゐる位ひは見當が付いてゐるんで、毎日々々人をよこすんですけど、——何分にもお雪さんがうごがないんで、お母さんも困つてるんです。——そして今朝になつて、訴ふつて來たんですけど——

お榮。(快よい微笑はだんだんにさめかけて、眉毛の間に暗い影がさしてゐる)訴ふつて——

孝二。訴ふからつて、云ふたつて、今更、歸へすことは出來ませんし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お榮。歸せないつたつて、孝ちやんお前どうするつもりだい――一緒になるつたつて、さう親方がおこつてゐちや手もつけられないだらう。

孝二。え丶、それで店からはお女房さんが親方に内密(ないしよ)で、又手紙を下すつたんです。あの通り怒り出すと一こくを云ふ人だから、久ばらくは、かくれてゐるがい丶、その内、私からもよく話をしてやるからと、書いてあるんです。訴ふたつて自分の子だもの、そんな人情のないことは私がさせないからとも書いてありました。

お榮。そうかい、それで。

孝二。それにや家にお雪さんを置いて置くのはなほまづいですが、一時どうでせう、姉さんとこへ置いて下さるわけにやまゐりませんでせうか――お母さんがそのお願ひに來たんですれど少し今夜は急ぎ仕事があるんで、私に行つて來いと云ふんで、うか丶つたんですが――

お榮。さうさね。お母さんはどう云つてるの、――それで孝ちやんも少しの間遊んでゐるんだね。

孝二。え、え、

お榮。私一人の時ならね、どんなことがあらうとい丶だけど、――まさか、こんなことは

家にも話せないし……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夫にも話せないし……

孝二。（無言）

お榮。ほんとに困つたね、――何とかしようがありそうなもんだね、――私もねまだこゝへ來て半月も經つてゐないんだからね、なるたけ、そんな自分の身内のいさくさは聞かせたくないと思つてゐるんでね――困つたね。

孝二。――色なことを考へると、無暗に、無しや苦しやして來て、もういつそ遠い他國へでも行つちまをゝかとも思ふんです。何、一人や半分の女くらい何したつて干ばしにはしないつもりです。――親方に詫びが叶はなければ、それでもいゝし。

お榮。だつて孝ちやん、よく考へてごらんよ、落付いてね、又お雪さんの心持だつてよくとつくりと私でも聞いて見ようぢやないか。（間）

誰れだつて若い時にやあることだね。――

孝二。ええ、――（間）そいぢやどうも、お邪魔いたしました。おいとまします。

お榮。歸へるかい、ぢやよく考へてね、あんまり短氣は出しなさんな。

孝二。（少しの間無言）（氣をかへたやうに）おきんさんどうも失禮を、――。

おきん。私こそ、さようなら、お母さんによろしく。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

孝二。えゝありがとうございます。（孝二一人障子を出て行く。）

お榮。氣を付けてお出でよ。

孝二うしろ手に障子をしめて行く。――やがて格子の鈴がなる。

お榮さおきんさは顏を見合したまゝでゐる。陰氣ぽい沈默が舞臺中へまたゝくうちに廣がつて行く。

みちの聲がする「あら孝二さんでしたか、暗いもんですから――」孝二の聲で「さよなら」みちの聲「雨が降つてますよ、お傘をお持ちなさいまし。」孝二の聲、「何いらない――いゝよ」みちの聲「そんな事お仰つて、濡れますお持ちなさいまし、――あらもう行つて了つた。」鈴がなる。

寄席の三味線は、さつきからもう聞えない。――みち登場

みち。只今――おそくなりましてすみません。

お榮。おかへり。雨が降てゐるつて？

みち。え、降り出しましてございますよ。孝二さん何と云つてもお傘をお持になりませんでした。いゝ、いゝつて、軒下をずんずん行つてお了ひなさるんですもの。

お榮。（おきんの顏を見つめたまゝ）そう。――

みち。こまかい雨でございますよ、音もしない樣に――

おきん。（しみじみとした聲で）おみつさん孝二さんは、どんな樣子だつて。

みち。雨でござんすか、ふりむきもなさらないで……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みち。何でござんすか、ふりむきもなさらないで……

おきん。え、お榮さん、何か間違ひでもなけりやいゝがね。

お榮。大丈夫だとは思ふけど——まさかそんなこともあるまいけど——

おきん。そのお雪さんてのは未だ若いやうだね。

お榮。たしか十六とか七とか云つたよ。お榮もおきんもぢつと目を伏せてゐる。みちは何をしていゝかわからないやうに、臺所の出入口に立つてゐる。

おきん。（みちに向つて）傘ももたないでゞすつて。

みち。えゝ、どうなさつたんでござんせうね。

お榮。（ついと立ちあがつて）私姉さんとこへ行つて見てこよう——

おきん。さうね、それがいゝね。間違いがあつてからぢや追付かないからね。

お榮。（みちに）コートを出してお呉れ、冬のを——いやに寒くなつたね。（間）おきんちやんにはすまないね。たまに逢つたといて、色々な勝手ばかり云つて。

おきん。何いゝよ（考へ事のすゞきらしく）——私あんまり差出たやうだから、控えてゐたけれど、——何なら、私のところでその娘をあづかろうか。

お榮。さうさね、——もしかしたら御迷惑を、お頼みしようかしら。——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みち簞笥からコートを出して來る。

お榮。（袖を通しながら）もう私、つくづくあんなことの心配ぢやあきて了つてるもんだから、可愛相だとは思ひながら、あんなことを云つて了つて――ああして歸へしは歸へしたけど實は氣になつてね。

おきん。全くね、私にやお前さんの心持は、解つてゐるわ。――ぢや娘さんは姉さんにでも連れておよこしなさいよ。秋葉の鳥居前の通りだからね。ぢき、花屋の右でね少さなくゞり戸の門の家だから――ぢき知れますよ。

お榮。ほんとにさうしてもらをゝかしら。――さうしてもいゝかい。

おきん。ああ、よござんすとも。――そいぢや一緒に出ませうよ。

（おきんもコートをきる。）

お榮。みち、旦那が歸いんなさつたらね、姉さんとこまで一寸用で行きましたつてそう云つてお呉れ、他の事は云はないでもいゝよ。

みち。はい――行つてゐらしやいまし。もう外は淋しうございますね、雨ですつかり夜店がしまつて了ひましたから。

お榮。そうかい。おきんちやん、外へ出てお前さんの車を見付けやう。

おきん。あゝそうしませう。おみつさんさよなら、――お留守番は淋しいでせうね。

おきん。あゝそうしませう。おみつさんさよなら、――お留守番は淋しいでせうね。

みち。いゝえ、ではさようなら。

皆な退場――舞臺は空虚(から)になる。鈴(りん)の音だの、低い話し聲だのが一しきりしてゐる。みちが「さようなら」と云つてゐるのがよく解る。

やがて正面の障子から又みちがもさつて來て、そこいらを片付けはじめる。――片付けて終つて電氣を消す――舞臺は眞暗になる。臺所からさす、薄い明りが、くつきりと筋をつけて、斜にこつちへ流れてゐる。みちは明りのある方へ行く。

（幕）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

九月の作の中より　――柴田かよ――

湯川原の
湯女の襷にまとひよる
夜風の寒さ、初雁のなく

朝の風
寝みだれ髪を軟に
なでゝ辷りて木犀に吹く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いさゝかの
麥酒に浮かれ爪彈きを
强ひたまふ夜の細き雨かな

琴彈けば
ほそき指にまつはれる
君が瞳と冷たき夜風

虫が鳴く
忍び音に彈く三味線の
絃にからんでしめやかに鳴く

こゝろよく
啜る紅茶のうす甘き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

湯氣がほのかにかゝる前髪
夕顔の
花の明るきうす闇の
湯殿の窓に白粉を溶く

蔦の葉も
些し黄ばめり、何となく
秋は男も美しきかな

ちらちらと
夜霧のなかに灯の光る
街のはづれに横たはる山

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

靜かなる
九月の晝を草の實が
ちいさき音をたてゝ飛び散る

冷つこき
秋の夕の肌ざはり
人戀ひしさのかけ廻る胸

しめやかに
女一人が留守をせる
家のまはりに鳴けるこほろぎ

瀧じまの
す袷を着て蝶々に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

結びかへたる朝の氣輕さ

君まさぬ
この四五日の日のながさ
旅の便りも待てばもどかし

やるせなく
つとうつぶせば冷え冷えと
額に泌みる夜更けの疊

ゆで豆を
たかく盛りたる乳色の
鉢の形の寂しくあるかな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

深みゆく
秋かも、雁の騷がしく
わたれる空の蒼白き月

しめやかに
君横笛を吹きたまふ
夕を雨の降りやまぬ哉

泣きぬれし
瞳の前に白き羽の
虫がまぶしく飛びぬ、黄昏

ふさやかに
貧しき影を土にひく

タングステンの泣かまほしけれ

知らぬ間に
糸瓜がいたくたけのびぬ
わびしや秋も深みそめたる

みつ豆も
鰐も納豆も賣の家の
なき街ぞかし、岐阜はかなしき

少數と多數

——エンマ・ゴルドマン——

私は現代の傾向を要約して「量(ロンテイテイ)」であると云ひたい。群衆と群集精神とは隨所にはびこつて「質(クオリテイ)」を破壞しつつある。今や私どもの全生活——生產、政治、敎育——は全く數と量との上に置かれてゐる。且て自己の作品の完全と質とにプライドを持つてゐた勞働者は自己に對しては無價値に一般人類にとつては有害な多額の物品を徒らに產出する無能の自働機械に變つてしまつた。かくして「量」は人生の慰籍と平和を助くるに反して唯だ人間の重荷を增加した。

政治に於ては量以外に何物も省みられない。量の增加につれて、主義、理想、正義等は悉く多數者のために沒却せられてしまふ。政治上の種々なる黨派は常に虛僞と欺瞞と狡猾と陰謀を逞しうして相互の主權を爭つてゐる。成効さへすれば勝利者として必ず多數者の歡迎を受ける——彼等は皆なそう信じてゐる。成効——それのみが唯一の神。品性に對してど

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れ程高い恐しい價を拂つてゐるかといふことなどはまるで問題にもしてはゐない。私どもは今更進んでこの悲しい事實を證據立てる必用はない。

政府の腐敗と墮落とがあばかれて今の樣にはつきりと目前に示されたことはこれまでにないことである。數年の間、人民の權利自由の保護者と仰がれ、社會制度の本綱として全然誹難の外に立つてきた政府がか程迄にユダの如き性質を現はさうとは私どもの全く思ひ設けなかつたところである。

かの黨派の罪惡が次第に厚顏になつてきて盲人さへそれを見分けることが出來るやうになつた時、彼等は自黨に對する阿諛追從者を頻りに召集するの必要に迫られた。而してその權勢は愈々確立せられた。幾度となく欺かれ、裏切られ、蹂躙せられた犧牲者等はひたすら勝利者のためにのみ事を計つた。困惑せる少數者はこの時、亞米利加の自由はどうしてこの樣に多數者のために裏切られたのであるか？　と訊ねた。かくの如きことを敢へて行つた多數者の判斷と推理力とは何處にあつたのであらう？　多數者には推理などいふことは出來ないのだ。判斷などいふものは皆無なのだ――ただそれのみ。徹頭徹尾獨創力と道義的勇氣とを缺いてゐる多數者は常に自己の運命を他の手に托した。自己の責任を負ふて立つことが出來ない彼等は指導者の導くがままに奈落の淵にまでも追從せんとするので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ある。われ等の中にあつて最も恐るべき眞理と正義との敵は團結せる多數者である。呪はれたる群衆であると。」叫んだ。ストックマンは正しかつた。凡そ群衆の如く革新を憎むものはあるまい。彼等には新しき第一歩を踏み出す力もなければアンビションもないのである。彼等は常に新しき眞理の革新者、先驅者を彈劾し迫害し來つたのである。

現代は個人主義の時代であり、少數者の時代であるとは全ての政治家、社會主義者を問はず一様に提唱し、又屢々繰返される鯨波(スローガン)である。只だ淺薄皮層に止まる人々のみかくの如き見解によつて惑はされるかも知れない。如何にも少數者は世界の富を蓄積した。彼等は實に現代の主人であり、絶對の帝王である。然しながら彼等の成効は決して個人主義の影響によるものではない。否、全く群衆の怯懦と怠慢と絶對服從とに起因してゐるのである。群衆は只管支配せられ壓制せられ、指導せられんことをのみ求めてゐる。凡そ現代の如く個人主義がその完全な發想をなすの機會を失ひ、健全なる狀態に於て自から肯定することを得ざる時代は人類の歴史以來初めてのことなのではあるまいか。

正直なる目的のために沒頭せる個人的特色ある教育家、獨創的思想を抱く文學者及び藝術家、獨立不羈の科學者或は探究家、妥協せざる社會改良家——これ等の人々は老衰のため學識と創造力とを全く失つてしまつた人々によつて日々壁の一隅に押付られてゐる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

フエラア型の敎育者（Francisco Ferrer――革命的敎育家、一九〇九年九月一日、敎權に反抗せりとの故をもつて西班牙政府の捕ふるところとなり、同十月十三日獄中にて銃殺せらる。――譯者）は現在會にあつては何處にも入れられないのである。衆愚と自働機械の時代に於てはかの俗流に媚ぶるエリオツト或はバツトラア敎授の如き人々でなければ成効と永續とは覺束ないのである。文界及び劇界に於てもハンフレイ・ワアズ或はクライド・フイチエスの如きが群衆の偶像（アイドル）であるにひきかへ、エマアソン、トロウ、ホイツトマン、イブセン、イエツ、ステフエン・フイリツプスの如き天才の美を認識する者は極めて少數に過ぎない。彼等は群集地平線の遙かかなたに輝く孤獨なる星辰である。

出版業者、演劇主任、所謂批評家等は創作に離るべからざる「質」を無視して、その賣れ行きと俗受とを先つ問題とする。悲しいかな、俗衆の口は塵芥箱（はきだめ）の如く、心力の咀嚼を要せざるもののみを受入れんとする。その結果として平凡陳腐なる作物のみが代表的作品として歡迎せられるのである。

藝術界に於ても同一の悲しき事實に面することは改めて云ふまでもない。所謂藝術製造品の俗惡と見悄さとが知りたければ公園や大通りを觀察して步けば直にわかることである。俗惡なる多數趣味以外になにものかかくの如き藝術の蹂躙を默許することが出來やう。都市

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の隨所に簇立せる銅像の類は悉く低級虛僞の作品のみであつて、眞の藝術に比する時は恰かもミケルアンヂエロの作物に對する土人の偶像であるかの如き觀がある。然しそれ等が成効に價する唯一の藝術品である。社會の概成觀念に囚はるることなく、自在に獨創を發揮し、ひたすらライフに眞實ならんと努力する藝術的天才は常に慘憺零落の生涯を送る。勿論彼の作物と雖も何日か彌次馬の玩弄品となる時があるかも知れない。然しそれは少なくとも彼の心血が悉く注ぎ盡された後である。

今日の藝術家はかの古のプロメシャスの如く絕へず經濟的必迫の巖上に縛せらるるが故に自由なる創造に從事することが出來ないのであると一般に云はれてゐる。然しながらそれは孰れの時代を問はず常に眞の藝術家に供つてゐたことなのである。かのミケルアンヂエロすら保護者（パトロン）に依立してゐた。唯だ當時の藝術鑑識家は現代の盲目なる群衆とは遙かにその趣きを異にしてゐたのである。彼等は眞に藝術の殿堂に參することを光榮と感じてゐた人々である。

現代の藝術保護者は弗（ダラア）といふ唯だ一つの標準、價値を知つてゐる。彼は傑作の眞質に關して全く沒交涉である。彼は藝術品のために支拂はるる金の價にのみ重きを置く者である。かくしてミルボウの『商賣は商賣だ』中の財政家はある不明な畫を指して「如何ですこの

傑作は、なんしろ五萬フランですからな――」と云つた。現代成金の口吻そのままである。藝術品のために拂はるる無意味の金嵩は彼等の貧弱なる趣味の埋合せをしなければならない。

思想の獨立といふことが又社會に於て最も許すべからざる罪になつてゐる。これが民主主義を標榜してゐる國に最も著しく現はれてゐるといふことは甚だ意味深いことでなければならない。恐るべき多數者の力。

ウエンデル・フイリツプスは五十年以前に云つた。『絶對民主平等のわが國では輿論は唯だに萬能（オムニポーテント）であるばかりでなく、遍在（オムニプレゼント）でもある。輿論の暴戾から逃るべき道もなく、隱るべき場所もない。例令諸君がかの古の希臘の提燈（ランタン）を携へて探しまはつても、世間の評判によつて自己の社會上の位置や仕事の上に何等の利害得失を蒙らない人を見付出すことは不可能であらう。吾人は自己の確信を臆することなく吐露する個人の集團ではなく、他の國民に比して極めて臆病なる群衆である。吾人は相互に恐れ合つてゐるのである。』これによつて見ると現代はかのウエンデル・フイリツプスを障げた當時の狀態から幾許も進んではゐないのである。

今日もかの當時に於けるが如く輿論は遍在せる暴君である。現代の多數者は臆病者の群

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

集を代表し、自己の心靈の貧弱を遺憾なく映ずる人間を喜んで歡迎してゐる。それはかのルウズベルトの如き人間が前例になき程の位置を得てゐるのでも解かる。彼は群衆心理の最惡なる要素を體現してゐる。彼は多數者が理想と純潔とを無視してゐるといふことをよく知りぬいてゐる政治家である。群集の欲求するものは見世物である。それが犬芝居であらうが、懸賞決鬪であらうが、黑奴の私刑（リンチ）であらうが、結婚披露であらうがかまはない。精神顚倒が恐しければ恐しい程、群衆の歡喜と稱讃とが激烈になるのである。かくして貧弱なる理想と俗惡なる精神とを有するルウズヴベルトの如き人間が時代の寵兒として名聲を博するに至るのである。

然るに一方にあつて、かくの如き政治上の小人の上に高く位する敎養あり眞に才能ある人々が懦夫として嘲弄せられてゐる。現代を個人主義全盛の時代であると主張するが如きは極めて滑稽である。現代は歷史上に繰返される全ての現象中の最も有害なるものである。宗敎と云はず、政治經濟上の自由と云はず、人類の進步に對する全ての努力は悉く少數者より發生するのである。而して今日に於てもなほ少數者はたへず誤解せられ、迫害せられ投獄せられ、或は殺戮せられてゐるではないか。

ナザレの叛逆者によつて說かれたる同胞主義はそれが少數者の光明である間は生命、眞

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

理、正義の芽を保存してゐた。然しながら多數者がそれを捉へた瞬間、その偉大なる主義は一種の符諜となり、到る處に苦痛と災厄とを傳播する血と火の先驅者となつた。カルヴィン、ルウテル等の巨人が羅馬の萬能に對する攻擊は夜の暗黑に輝く旭日の如くであつた。然しながらルウテルとカルヴィンが政治家と變じ貴族並びに群集精神に呼應し初むると同時に彼等は改革の本旨を危地に陷れた。彼等は多數者の味方を得て遂に成効した。けれどもその多數者はかの舊敎の怪物（モンスタア）と同じく思想と理性に對する殘酷な迫害者であつた。群集の輿論の前に低頭せざる少數異端者は禍なるかな。不斷の熱誠と忍耐と犧牲によつて人心は遂に宗敎的妄想より覺醒し、初めて自由なることを得るのである。少數者は新なる勝利の前途に猛進する。然るに年と共に虛僞に變りゆく眞理を背負ふ多數者は疲れたる步みを常にひきづッてゐるのである。

王者及び壓制者の權力に反抗して一步一步自己勝算の道を踏みしめつつ惡戰するジョン・ボール、ワット・テイラア、テルの如き巨人等が澤山出て來なければ人類は永久に絕對的奴隷狀態を脫することは至難であらう。個人的先驅者の力によらなければかの佛蘭西革命の巨濤も遂に社會をその根底から震撼させることは出來なかつたであらう。大事は常に小事によつて先立たれてゐる。かくしてカミイル・デスモリンの熱烈なる雄辯はバスチル牢獄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

と苛酷なる政治とあらゆる傳習とを顚覆するエリコの前の喇叭であつた。

　如何なる時代に於ても少數者は常に偉大なる思想と自由の旗幟を眞先に飜がへすのである。鉛の如く縛されたる群衆は何事をもなし得ない。この事實は露西亞に於て最も力強く證明せられた。數千の生命は血政のために犧牲となつた。しかもかの玉座の怪物は以前として滅ぼされない。最深最善の情緒が鐵の軛の下に呻吟しつつある時、如何して文學、敎養、思想の發達進歩を見ることが出來やう？　かの惰眠を貪る不活潑愚昧の露西亞農民は言語に絕する悲慘、鬪爭、犧牲の一世紀を經たる後もなほ『白き手の人々』を絞殺せる繩は幸運の御呪になると信じてゐるのである。

　亞米利加に於ける自由獲得の歷史に於ても多數者は常にその障碍となつてゐる。今日に於てもなほジヤフハソン、パトリツク・ヘンリイ、トマス・ペイン等の思想は後世のために拒否せられ、或は賣られてゐる。群衆にとつてかかる思想は無用なのである。リンコルンの偉大と勇氣とは當時の背景を創造した人々に於ては全く忘れられてゐる。黑人の眞の保護者はボストン、ロイド・ガリソン、ウエンデル・フイリツプス、トロウ、マアガレツト・フラア、セオドル・パアカア等の少數者によつて代表せられた。その人々の不屈なる勇氣は巨人ジヨン・ブラウンとなつて現はれた。彼等の不撓なる熱心と雄辯と忍耐とは遂に南方領主の要塞

を顚覆した。リンコルン及び彼の徒は奴隷廢止が實行となつて現はれ、萬人によつて承認せられた時、始めて運動に從事したのである。

約五十年以前、彗星の如き思想は世界の社會的地平線上に現出した。その思想は全世界の壓制者を悉く戰慄せしめた。遠大にして革命的な思想は又萬人の歡喜であり希望であつた。パイオニヤアは彼等の進みゆく道の如何に險惡であるかを自覺してゐた。あらゆる迫害と反抗と艱難と痛苦とが彼等を待つてゐるといふことを知りぬいてゐた。然しながら、彼等は自若として彼等の信ずる道に進み、進み、進んだ。今や、その思想は全世界のスローガンとなつた。今日に於て人は皆な一個の社會主義者である。富豪とその哀れむべき犧牲者と、律法と權威の維持者と、不幸なる犯罪者と、自由思想家と、虛僞なる宗敎傳道者と流行界にときめく淑女と襤褸をまとふ工女と皆な等しく社會主義者である。然るにかの五十年以前の眞理は全く虛僞と變つてしまつた。當時の盛なる靑春の意氣と勢力と革命的理想とは悉く萎縮し去つたのである。何故にかくの如き現象が生じたのであらう？　かの思想は今は美しき幻影でなく、多數者の意思を基礎として行はるる『實際的計畫』と變じたからである。政治的權謀はとこしへに虐げられたる哀れな群集の稱讚を歌つてゐる。

私は全ての選擧者と共に如何に群衆が常に簒奪せられ、利用せられつつあるかを知つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ゐる。この恐るべき狀態に對して當然責任を有すべきはかの一團の寄生虫ばかりでなく、群衆それ自身であると主張したい。群衆は常にその主人に屈從し、鞭撻せらるるを好む。而も一度、朽廢せる制度と資本家の神聖に對する反抗の聲の擧げらるる時、「十字架につけよ！」と眞先に叫ぶ者は實に彼等である。群衆にして兵士たり、政治家たり、獄吏たり、死刑執行者たるの意志なくんば、如何にしてかの當局者と私有財産の存在を維持することが出來やう。私が改めて云ふまでもなくこれは社會黨の主領もよく心得てゐることである。然しながら彼等の生活法が權力の永續を意味してゐるので、彼等は多數者の効力といふ神話を主張してゐる。如何にも、權力と强迫と從屬とは群集を基礎として成立せられてゐる。然しながらかの個人の自由を主張し得る自由なる社會の出現は到底望むことが出來ないのである。

かく云ふ私は必ずしも地上の追放者と被壓制者に對する同情がないからではない。又彼等の送る生活が如何に悲慘であり、侮辱せられたるものであるかを知らないからではない。私は只だ善の創造力を缺如せるが故に群衆を唾棄するのである。否、否、私は只だ彼等が一團の群集として何等の正義、平等をも代表し得ないことをあまりによく知りぬいてゐるから。彼等は人類の精神を壓服し、肉體を束縛した。群衆は常に人生を砂漠の如く單調

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

灰色なるものと化さんことをのみ目的とする。彼等は常に獨創と個人主義と自由思想の絶滅者である。『群衆は淺薄で不具で彼等の要求と勢力とは常に有害である。彼等に媚びる必要は決してない、彼等は只だ敎育せらるべきである。私は群集に對して讓歩すべき何物も有してはゐない。私は彼等を訓練し、分離せしめて優秀なる個人を撰拔せんと欲するばかりである。群集！　彼等は禍なるかな。群衆は無用である。私は唯だ正直なる男子と美しく愛らしい賢婦人とを要求する。』とエマアソンは云つた。私はその言葉を彼と共に信ずる。

言葉を換へて云へば、健全なる社會狀態の幸福と眞理とは唯だ賢明なる少數者の妥協せざる熱心と勇氣と決斷によつて實現せられるのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自己の或る心に與ふ ——西崎花世——

○

此の心が斯う云ふ方向に向いて、激しく歩き出しさうになつた。何故この心が自分の存在の安全を破壞する方向に向いて、自分を墜落させる斷崖に向いて、恐怖と苦痛とにみちた世界の方へ、越えてはならぬ界を踏み出さうとするのであらう。このまま歩かせては危い。このまま育てていつては自分は穽穴に落ちてゆくより外はない。この心を抱き止めねばならない、この育つてゆく芽を燒かねばならない、この眼を開かせてはならない、どうしてもこの心はさへぎらなければならぬ心だ。この心は處を得た當然のものではない。

或る境遇と或る性格には、その世界は直ぐ正しく、直ぐ美しく、直ぐ賑に開いてゆく事が出來る。或る境遇と或る性格には、その世界にゆく道が正面につくられてゐる、而してその境遇とその性格とは他の方面に置かれてゐて、この自分の內容には無い。この自分の所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

有してゐる境遇と性格とはまつたくそれではない、他の者である。
　私はそれを知らないではない。寧ろ知りすぎる程知つてゐるこの心が、理性も、感情も何も働かぬ界まで前進しやうとする。此の心の底に何物がひそんで、それをさう押し切らせやうとするのであらう。矢張いつもの「野の獸の運動」のやうな、魂の外の暴力なのであらうか。
　それであるらしい。
　それが私をひきずるのであるのだ。
　私は高い處から裁判官のやうな眼で被告席にすはらせた「自分」と云ふ囚人を裁判するのであつた。而して、その囚人を殺さねばならぬ理由を見付け出さうとするのであつた。出來得る丈正しく、寛假せぬ處決の理由を求めるのであつた、そして死の宣告をあたへやうとするのであつた。而して殺される事そのことを有意味に受け取るだけの用意を作らせやうとするのであつた。
　殺さねばならない、その理由は極めて明白である。この心は正しくないからである。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分を殺すと云ふ思索も行爲も、私の生活にはいつも極めて尊い注射劑である。

私には自分を殺すと云ふ事が無意味ではない、私は運命から拒絶された時、猶その拒絶から、運命の好意を受け取りたいとおもつてゐる、私は他人から壓迫された時、猶その壓迫の中に價値を見付け出さうとする心を持つてゐる。自分を殺す事をしけければならぬ時、猶、自分を殺す事から幸福を見付け出して、自分の生を富ませうとする心をもつてゐる。私は今の二の命のところまでは、それをさうする事が出來たと信じられる。今まで自分を殺す事に慣れなかつたのではない。可成私はそれに慣れて來た。

この心を殺して了はう。

必ず殺さなければならない、この心は何に對しても正しくない何に對してもその處を得た當然然のものではない。

その處をあやまる心は殺さねばならぬ心だ。殺さねばならぬ心は、自分が殺さなければ他から殺しに來る心がある。他から殺しに來る心を持たねばならぬ程卑怯な自分にはなりたくない。それほどの恥辱はない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自分を殺して自分に妥協するのだ。私は必ずこの自己を殺して、妥協の道に出なければならない。妥協する事はさう好ましくはない事である。妥協は進まうとする人に常に惡まれる心である。妥協者は常に弱者の名である。

然し私のこの心が妥協の中に意味を見付け出さうとする事は出來る、強い行爲と、強い思索とが妥協の中から育つてゆく事がある。妥協の厭はれるのは無意味の場合にすぎない。進まうとする心は妥協しなければならぬ心だ、伸びやうとする心は、縮まうとする心である。私にそれか解らないのではない。

必ず私はこの心を殺すであらう。この現在の妥協は、次の生活に對する準備である。

自分を殺す事は、一時の不自然にすぎない。而してその不自然は間もなく、更に大きい自然に回復してゆくだけの素質のある不自然である。

ある不自然から自然に還り、或る逆が、順に還つてゆく事は、私の智慧よりもむしろ私の經驗がそれを敎へる。

○

自分を殺し得る心は、他人にひきずられぬ心である。他人にひきづられる心は、如何な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る場合にも、他人に殺される心である。

他人にひきずられる心は、無意味にそれを殺す事が多い。少くとも意味を捉へて自分を殺す事の出來る力が私に在る間は、私は他人にひきずられては居ない。

私は、他人にひきずられたくない。私が私を連れてゆかう。

○

心の弱いものは多く、自分の外につまづくであらう。心の強いものは多く自分の內につまづくであらう。寧ろ心の外につまづくものは弱いのであらう、而して心の內につきづくものに強さがあるのであらう。

「つまづき」に意味を捉へる心が強い心だ。

「つまづき」に意味を感じぬ心は弱い心だ。

「つまづく」事は人の生涯の育つてゆく一つの熱だ。つまづく事は回避する必要はない。寧ろ、多く、つまづく事をこひねがふ心が、人を進ませるのであらう。私はつまづいていい。つまづく事は、貴い糧食(かて)の一つであらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

一つの事が終れば一つの事が始まる。人生は死の際まで、この終る事と、この始まる事との連續である。この見易き生存上の約束を折々忘れる心が私にある。その時にはいつも私は墮落してゐる。而して用意を怠つてゐる。

自分の心一つさへ思ふにまかせない。

○

私は始め聰明な心を欲しがつた。而して私はこの心を進ましたいとおもつた。今はその時が來た。この心を引きあげてゆく力はこれからの此の歩行の上に現れて來るのに、相違ない。

あの言葉を私の心が受け取つてゐる。あの大きい心持が私の胸に映つてゐる。あの靜かな生きてゆき方が私の上に響いてゐる。而して、私を私のゆかうとする世界の正路にみちびいてくれる。

凡ては愛ではない。それよりも廣い、それよりも公けな、大きい良い影響を、私の心が

受けてゐる。私の心が生れかはる。而して私の心が伸びやうとする。私は向方に歩く事が出來る。而してあの與へられた言葉の感化がどれだけこの心に現れ出るかと云ふ事を見る事が出來る。

私の心持は明るい。

○

世界を捨てた。世界が私を捨てぬ間に、私がその世界を出た。私の心は旅のやうな無限の淋しさと、無限の果敢なさとに涙があふれる。

併しこの何物をも捨てた心、何物にもはなれた此の心持こそ尊いとおもはれる。何物をも捨てた心には何物かが生れて來る。何物か終れば必ず何物かが始まる。凡ての持ちものを投げ出したこの心には良い報ひが現れて來る。闇黒に向いて歩き出すこの眼には光りを慕ふ事が出來る。

何物をも持たぬ貧しいこの心持は、人の生活を進ませる力を與へてくれる。その世界を捨てなかつた價値よりも、またその世界にかりに住み得る價値よりも、今の私の心の此の發育には、この何物をも捨てた後の心が尊い價値を現はしてくれる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何物をも振り離して、私の心が歩く。
自分の心を掘るより外言葉のない自分をはぢてゐる、然し自分の心の根を掘る努力はやがて自分の外のものにも至るであらう。
自分は他人と同じ根から育つてゐる。
自分から他人へ、
他人の見える心は未來である。
その未來へ。

（大正二、一〇、五）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

北の郊外より――岩野 清――

△私は今迄夫婦と云ふ二人の專有した家をもつて暮してゐました。二人以外に何物も浸入してこない單純な生活をしてゐました。家庭と云ふよりは意志の疏通した男と女が一つ軒の下で同一な方針で暮してゐたのです。つまり男と女の共同生活であつたのです。それがこの八月から泡鳴氏の義母と、私の實父とが私達二人の生活の中に這入ることになりました。

これがため私達の共同生活は世間並に家庭と云ふ形式が出來たのです。

こんな異分子の集つたごた〳〵した家庭ですが今日迄の處どうやら圓滿に行きさうです

それは勿論老人達が私達の生活の樣式に對して全然干渉な寛容な態度を執つてゐてくれるからでもあります。

私は四人の個人が狹くるしい一つの軒の下に住つて大した感情の衝突もなくゆつたりした氣分で暮して行かれるのは非常に氣持の好い事だと思つてゐます。かうした經驗の上か

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ら私は個人主義と云ふものが決して恐るべきいやなものではない。又世間の多くの人が思つてゐるやうな情味のないものではないと斷言します。

　私達は二人とも今更お斷りするまでもなく個人主義です。お互の間でも出來る限り無干渉の方針で暮してゐます。夫婦であると同時に一方では獨立した個人として意志の自由をお互に承認していはれなく他を制限しないことにしてゐます。然し今迄のやうに二人きりの生活でこそ實行できるにしても古い社會の中に生ひ立つて年とつて來た老人達が交じつては幾分か破壞されはしないか、と私はひそかに杞憂を持つたのでした。

　所が案外に好結果で私達は私達として、どこまでも自分達の様式通りつゞけてゐられさうです。父は畑がゝりで菜や太根の世話をしますし、母は家の雜務の一部を分擔してくれますので、私は却て自分の自由時間が多くなりました。

　私はもとから、親子兄弟と云ふものを他人と特別にちがつた關係があるものだとは思つてゐませんでした。親子兄弟などゝ云ふ名は或一定の期間餘儀なく共同の生活をさせられた紀念の外に、深い意味のあるものではないと思つてゐます。肉體が或程度まで成育した曉には、親子兄弟と云ふ關係は消えて個人と個人との交際になるべきものだと思つてゐます。

肉體が成育し、靈魂が獨立して後まで親に頼らうとしたり、兄弟に頼らうとするのは最

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

肉體が成育し、靈魂が獨立して後まで親に頼らうとしたり、兄弟に頼らうとするのは最も卑しむべき乞食根性だと思つてゐます。

で私は親と云ふ名があるから自分の父を扶養するのではありません。從て姑に對しても良人の母だから扶養の義務があるから餘儀なくするのでもありません。私は二人の老人に對して血族非血族と云ふ區別を感じてゐません。私は老人達を安全に扶養するのは、壯者の老人に對する社會的事業の一つだと思つてしてゐるのです。私は二三ケ月後に世間の女並に母となる筈です。然し私は今まだ私の體内に寄生してゐる未成の人間に對しても同樣な考へをもつてゐます。私は私の體内で私の肉と血と勢力とをかてとして生きるために努力してゐる未成の人間に對して愛着はない。喜悦もしてゐない。偶然に私の體内に寄宿したものとして一通りの發達をさまたげないだけの保護をしてゐるのです。

私は老人達を家庭に迎へた時のやうにシンプルで靜寂な家庭の空氣を、赤兒と云ふ無智な弱者のためにかきみだされはしないかと恐れてゐます。

△私は近頃すべてのものに興味を感じられなくなつてしまつた。劇を見ても、小説をよんでも、繪畫を見ても、何の刺激も私の心に起らない。これは私の神經が遲鈍になつたのか、或は人を動かすだけの價値ある藝術が出來ないためか。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私はかうした自分の沈滯した神經から考へて、人生と云ふもの全體が意味のないつまらない事のやうに思へて來た。智識、それが何を私に與へるだらう。藝術、それが私の生活に何の力をあたへるだらう。智識が無くとも人間として生きてゐられる。藝術を味はふ能力が無くとも彼等は生を樂しむことが出來る。大自然はむしろ虛心淡懷無自覺無智な人間の胸に却て親しく接近してゐるやうに見える。

私は理窟をきゝたくなくなつた。考へると云ふこともさけたい。喜び安く怒り安いむき出しな原始的感情に歸りたい。自分で自分の運命を作つて行く怜悧な人間になるよりも、自分を運命の手になげ出して流れ行くまゝに流れてみたい。ぶつかつてくるものに躊躇もなく疑もなくぶつかつてみたい。火の熱いと云ふことも忘れ、氷の冷たいと云ふことも忘れて赤兒のやうな新らしい目をもつて更らに人生を見直してみたい。

△或人から聞いた處によると英國ではダリアの花に匂ひをつける事を研究してゐるさうだありのまゝそれだけで見て樂しむことがなせ出來ないのだらう。由來匂ひのない花に、人工で匂をつけてまで自分達の趣味に從はせやうとする人間の强慾。

私はすべてありのまゝでありたい。朝顏でも菊でも殊に奇を好んで朝顏にして朝顏らしくないいぢけたり、さけたりした片輪な花を賞する人の心持をいやしいと思ふ。ダリアはダリ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

アで匂ひがなくともダリアとしての個性もあり特色もある。かう云ふ意味で私は西洋花はあまり好きでない。西洋花には一般にあくどい人工の跡がしみ込んでゐるやうに思へるからである。

私は花壇の中にそだてた花もいやだ。花を作るにしても特にさういつたくぎつた處に植えずにあちらこちらに思ひのまゝにのびたりはつたりしてゐる方が見た目もゆつたりした氣分になれる。

花壇にそだてた花。文明と云ふ花壇に作りあげた人生。私はかうした技巧がいやになつた。あるがまゝの姿。赤裸の人生。私はさう云ふ自分になりたい。私はさうして耻ぢない自分になりたい。

（をはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

束の間の明るみ

――白川智惠――

ひいやりと水白粉の香氣吸ふ頰のほてりのこゝろよき秋

萩などの朝のそよぎに結ひあげし髮の根しまるおもひありけり

秋生ひしあさみどりなる草の葉にふるへやまざる風の見ゆるよ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

東の間のこゝろの上の明るみをあしたの芙蓉の
くれなゐに趁ふ

生ひたちは京の娘さかなしくも白き肌になみ
だおちぬる

そびえたつ山を見上げて親しまむ何ものもな
し旅のこゝろの

濠端のアカシャの葉に枯れ見ゆるころ東京の
さびしくなれり

かたばかりの庭の花壇にあわたゞしく風だち
て午後の日のかげりゆく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かりそめのものゝ響も苦になりて女ずまひの
夜ばなしもなき

あたゝかき人の家族にとなりすむいたましさ
さへあたへられにき

おわたゞしきうしろ姿を見まつりてはたゞ哀
しきおもひに暮るゝ

あやまりて見らるゝ隙のありもせむなみだ冷
たくなりまさる秋

夕陽が廊にゑがける鳥籠の影の小鳥のねむる
しづけさ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あかつきの小雨の冷えに秋草を氣づかふほどの身のやつれかな

門入りてそのしづけさに病みませる君がうへおもひまづ涙ぐむ

赤あきつコップの乳に口つけて飲みて行きけり午後の蒼空

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「動搖」に現はれたる野枝さん

――らいてう――

私が「動搖」に現はれた野枝さんに就いて獨り勝手な想像をしてゐる中に、自然は一刻も休まずにずん／＼とその働きを繼續して、今私がやつと筆を執る氣になつた時、野枝さんはもうあの野枝さんではない。

今、野枝さんは可愛い〻ものに乳房を含ませてゐる「人の母」である。私は我々の反省や思索を待たずしてぐん／＼となるやうになつてゆく現實に面接したやうな氣がした。

今の野枝さん自身にとつては「動搖」の中の野枝さんは最早餘りに遠い過去の思がすることだらうと思ふ。從つてあの當時の野枝さんよりも又「動搖」を書いた當時の野枝さんよりも今の野枝さんは「動搖」の中の自分を比較的公平に、純な心で客觀する丈の餘裕が十分出來てゐることゝ思ふ。だからそれ丈私はあの野枝さんを何の顧慮もなく解剖し、批評し得るものと思つてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あの戀愛事件は、若し戀愛と云へるなら（この事に就いては後に委しく述べる筈だ）それは極めて閃光的な戀愛で、野枝さんがT氏との永續的な戀愛を彩るほんの挿話に過ぎない。といふのは野枝さんは其表面に於て甚しく動搖したにも係らず、T氏に對する愛はその根底に於ては何の動搖をも受けなかつたから。且「動搖」に現れた野枝さんの行動は眞に野枝さんの人格の深い處から意識的に出た、反省を經たものではなく、又自覺せる女とか醒めたる女の戀愛などゝ稱すべきものでもなく、寧ろその多くの場合は一時的の激情や、突差の衝動に發した盲目的な、前後無關係な連絡を欠いた行ひで、眞に自己の生活を有つたものゝ生活は殆ど見ることが出來なかつた。そのかはり何處か可愛らしい、率直な、生一本な向ふ見ずのもので、眞質の力や無意識の力を思はせられる樣な、又木地のまゝとでもいつたやうないゝ處も多かつた。そして在來の女の心に付きものゝたまらない厭味が何處にもない。

海國に育つた野枝さんは水泳が上手で男子に交つて遠泳の競爭も出來るのださうだが、殊に眼まひのする樣な高い櫓から水の中に飛び込むことの出來るといふことは野枝さんの稱に得意としてゐる處らしい。最初それを練習する時はいくら飛び込まう／＼と思つても足がすくむでどうしても思ひ切つて飛び込めない。けれど一旦櫓に登つたが最後も

う梯子を取られて仕舞ふから二度と下りて來ることは出來ないことになつてゐるので、死んだ氣になつて飛び込んで仕舞ふのだといふやうな話をいつか野枝さんから聞いたやうに記憶してゐるが、どうも野枝さんのやる處を見てゐるとそれによく似た處があるやうなのは面白い。

これは水泳から得た修養によるかも知れないが、又野枝さんは元來九州生れの並外れて情熱的な女だといふことにもよるのであらう。けれどこゝに注意すべきことは野枝さんが僅に二三片の手紙によつてあゝまでも忽ちに激しく動搖したといふのは姙娠中の過敏な神經もあづかつて力ありはしなかつたらうか。(けれど私は次のことを忘れてゐやしない。野枝さんにとつては實にまだ十分反省するに困難なほど生々しいことだつたといふことと、それにも係はらず且はあゝ迄激動したにも係らずあれ丈落着いて事件の顛末を明瞭に書きこなしたあの確實な頭腦は十代の女のとてもなし得る處でないといふことを。)

五月の或雨降りの金曜日に私は小母さんと事務所で話しをしてゐると、玄關の方に人が來た。取次ぎに出て戻つて來た小母さんは木村といふ人が野枝さんに逢ひたいと云つて來たのだと云つた。そしてそれは若い書生風の男だといふことだつた。けれど私達は野枝さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

んからついぞそんな姓の人のことを聞いた覺えもないので、いづれ例の紹介もなしに、又これといふ用事もなしにとりとめもない好奇心から訪問しに來る靑年の一人だらう位に思つてそれなり忘れて仕舞つた。すると其後矢張り野枝さんに宛に木村莊太といふ人から一通の手紙が來たので、ではいつぞやの人がこの人だつたのかとふと思ひ出した。自分は手紙の內容は見はしなかつたが、それは眞面目なものだといふことや、かういふ眞面目な手紙に對して返事を出さぬのは惡るからうといふやうなことやT氏も木村氏を眞面目な男だらうと云つたといふやうなことを野枝さんから話された。

「野枝さんは矢張りまだ若いと思つた。あの手紙が餘程氣になると見える」小母さんは私にこんなことを言つて笑つたことなどもあつた。

ともかく野枝さんが第一の手紙の時から無頓着に打捨てゝおかれなかつたといふことは明である。T氏に見られては困ると云つて小母さんにあづけたなどはその證據で、いかにも若々しい女の心が見える。けれど誤解してはいけない。野枝さんが無頓着でゐられなかつたのは、寧ろ野枝さんの疑ふ處のない若い心があの手紙の全面から受けた誠實に感じたことなのである。

色々と考へた末、とうとう野枝さんに返事を書かせたものもそれだつた。T氏も亦木村

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

氏を信じてそれをすゝめたこともあつたにはあつたが、あゝいふ眞面目な考へから出た男の要求を其まゝ打捨てゝおく事はすまない、ともかくも先方の要求を入れて面會した上でT氏と同棲してゐる自分の境遇を話さうといふそれだつた。けれどそこにはなほ一つの理由がある。それは自分は木村氏の手紙を同情と理解とを有つて受納し得る女だといふ自信(一種の誇り、わるくいへば自惚だ)と男の申出を只々退けては何等の理解のない無智の女と輕蔑されはしまいかといふ懸念とである。自分の價値を認められないといふことは野枝さんのやうな女にとつては殊に不愉快なことであらうから。それも一種の虚榮だといふならそれ迄だが、かういふ心から戀愛なしに出來る丈け接近してゆくこの種の女の心を了解する男は少いやうだ。

あの返事の中には野枝さんの氣持がその儘、何の飾りもなく、いかにも自由に、現はれてゐると思ふ。と同時にどちらかといへば傲慢な方の野枝さんがあの位長い手紙を書いたといふこと丈でも先方に對して多少の尊敬と、いゝ感じとを有つてゐたと云ふことは十分察せられる。

かうして野枝さんは先方の要求を入れて遂に面會した。だから野枝さんの方には木村氏その人に對して何の豫想する處もなければ期待も有たずに面會したのだ。こゝは一ヶ月も

前から色々と想像した上で面會した男の方とは其心持の全く違ふ點だ。

面會は野枝さんにとつては意外なといふよりも稍に恐れてゐた結果を持ち來した。それは逢つた木村氏は手紙を通じて考へた木村氏よりも寧ろ輕卒な、重みのない人のやうで、幾分か彼に對する尊敬の念を減じた位だのに、木村氏の方は野枝さんに對する戀愛が急激發展したことである。

第一の會見に於て何よりも先に云ふ筈だつたT氏と同棲のことを云ひおくらしたといふことは野枝さん自身も自分を咎めてゐる通り、この事件をこんな方面に發展させて仕舞つたのだ。

T氏との結合の鞏固なことを信じ、T氏に對する自分の戀を重じ、あゝまで木村氏の戀を苦にして避けながらも、なほ氣の毒がつて面會するなどは野枝さんが東京育ちの女でない所謂で、又あゝいふ刺戟にあまりに馴らされてゐなかつた證據だと思ふ。さもなくばいかにそれが眞面目さうなものでも未見の男からの一回や二回のあゝした手紙位ですぐそれを信じてその心持に同情したりする程好人物ではゐられない。このあたりは實にうらやましい程人がいゝのみならず女性的だ。

さういふ野枝さんだ。だから會見後男が自分を娘と思ひ込んで矢次ぎ早に放つあの興奮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した手紙に對しては殆ど想像も出來ぬ程苦しみもし激動もした。

それは木村氏に對する純なる戀愛からではない。T氏に對する不變の戀愛が木村氏の上に憐憫の心となつて働くからだ。大きい二つの袋の中に一杯になるまでラブレターをふたりに書かせたT氏と自分の苦しい、辛い、けれど本當に樂しい滿一年半以上も續いて來た戀も知らず、殊に今T氏の子供がからだの中で一刻一刻と育つてゐる自分をも知らず、妊娠してから一層T氏に對する執着を增して來た自分だといふことも知らずに、自分の上に注がれる思ひ上つた男の眞實さうな戀に對して何かは知らず、すまないやうな氣の毒のやうな氣がしたのだ。

「動搖」に現はれた處丈で見るとあの事件の間、只の一度も自分が妊娠の身であるといふことは意識的には野枝さんの頭に上つて來なかつたらしい。だが私は之れが不思議でならない。女自身は自分の妊娠といふことに對して元來これ程無意識なものなのであらうか。お腹の中にゐる子供とそれほど無關係でゐられるものなのだらうか。之れでまたい丶ものなのであらうか、自分に經驗のないことを口にするのは僭越かも知れないが、一寸不思儀でならない。

いま一つ野枝さんを動かした他の理由がある。それはふたりの中の或る類似點である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

都會人でないだけに遊戲的もしくは技巧的な分子を全く見出さない、野枝さんのあの眞面目な全力的な人格が木村氏の隨分故意な、不自然な若い男の常として思ひきり獨合點な内容の貧しい興奮ではあるが、(併しそれは野枝さんには其當時氣付かなかつたらしい、寧しろ其粗雜な、又暴進的な力に壓倒された氣味があつた位だ。)いつも調子の高い緊張しきつた氣分と直に共鳴し、そこに野枝さんが常に憧憬してゐた威力を感じたのだ。かうして野枝さんはその力の前に一時爲す處を失つた。自身の上に急激におつかぶさつて來たこの力の壓迫の爲に忽ちにして反省の能力を奪はれて仕舞つたのだ。そしてかつと燃え上つた一時的の情熱は半意識の中にあの長い〳〵第二の手紙を書かせた。

私は第二の手紙を讀んだ時、すぐ昨年の初夏未見の野枝さんから受取つた最初の長い手紙のことを思ひ出した。今日の境涯を切開いたる過去の野枝さんの苦しい經驗を思つて涙が出たと同時に、すぐ一筋に思ひ詰めて無我夢中になれるこの種のパッショネートな人や又自己をよくもまだ知らぬ人の前にすぐ語ることの出來る人を羨ましくも思つた。

そして野枝さんの何處か野生的の處のある血色のいゝ顏や、無邪氣に話すあの大きな聲や締つた筋肉や、よく發育した肉體が心に浮んだ。と同時にその野枝さんが眞白な水泳服を着て高い檣から水の中に飛び込む時の樣子を思つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第三の手紙に於て野枝さんは更に其激動の度を増して殆ど混亂の中に陷つてゐる。

息もつかせないほど立てつゞけて後から〳〵と身邊に押し寄せて來た木村氏からの手紙それを野枝さんはいといながら殊にそれによつて動搖する自分を恐れ、それについて根本的に考へることさへ出來る丈避けながら、遂にその愛の力强さに動かされて、たとへ手紙を讀んだその瞬間丈にしろ、その心は全然木村氏の方に引倒されて無意識の中に、「私はあなたの御言葉の一句一句も氣が遠くなる程の力强さを覺えます、こんな眞實なそして力强い愛を語られる私は本當に幸福だとしみ〴〵思ひます。」とか、「ああ誰があなたの愛を退け得ませう。私は心からあなたを愛します。本當に、本當に心から。」などと絕叫する處まで突き出された。しかもその上野枝さんは「すべての判斷解決は眞面目なあなたにおまかせ致します」と迄云ひ切つた。此手紙に於て私は野枝さんの心の働き方のいかにも或意味で女性的なのに驚いた。そして或可愛らしさを感ずると同時に餘りに無自覺だつた態度を咎めねばならない。まだ年齡が若いと云ふことも考へてやらねばなるまい、又姙娠中の女の生理狀態や心理狀態も考へてやらねばなるまい、が併しいかに何を省る暇もなかつたとはいへ、ほんとに自分で自分が分らがくなつたからとは云へ、そして如何に解決すべきかを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

知らなをつたからとはいへ、苟しくも自覺した女なら、私はもうどうしていゝか分りませんだの、自分自身のことを判斷してくれの、解決してくれのと頼んだり、訴へたりするやうなことは自分に對して恥かしくて出來ない筈だと思ふ。日頃の野枝さんにも似合はぬことだ。私はかういふ點に於てなほ野枝さんの中に男の愛の陰に、その力の下に蔽はれて生きやうとするコンヴエンショナルな女の面影の殘つてゐるのを見る。

何故野枝さんは自分が分らなくなつた時、どうにでもして落付いて、ほんとうの今の自分の心持を知らう事件の眞相、その意義を掴んで、自分の立つてゐる位置を見出さう、そしていかに解決すべきかを自から考へて、自から撰ばうとは努めなかつたのだらう。だから「動搖」の中の野枝さんは只無暗に激動して、騷ぎ立てゝゐる野枝さん丈で、そこにはさして深酷な苦悶も見えなければ、根本的な思索の跡もない。

現に相愛の男と同棲し、その男の子まで宿しながら、他の男に對して自分の熱烈な愛を語るといふやうな、重大の手紙を書きながら、自から其重大を知らない。そして眞に考ふべき幾多の重要な問題を無我夢中で飛び越して行つた。もと〳〵こんな無意識な戀だからそこに永續的な意義のあらう筈もない。前にも言つた通りその戀は勿論一時的、閃光的である、盲動的である。その生命は直接刺戟を受けてゐる瞬間丈で、刺戟さへ去れば、又は他

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

のそれにかはるべき刺戟が來さへすればすぐ忘れて仕舞ふのだ。果せるかな野枝さんはその手紙を書き終ると出來る丈考へまいとして眠て仕舞つた。そして翌日目覺めた時はもうそんなことは殆ど忘れて只木村氏から手紙の來てゐないのでのび／＼としたやうな氣持で、T氏と平氣で話などしてゐた。のみならずそれを投函する時はもう何を書いたことか自分にも分らない程だつた。しかも他日その手紙について尋ねられた時は「何を書いたか覺えがない。」と當然のことのやうに答へた丈で、その無責任を自から咎めるやうな心は左程動かなかつた。あゝいふ並外れて情熱的な女の動亂の中の行ひに對して責任を問ふことは他からは或は出來ぬことかも知れぬが、嘗に木村氏に對してT氏のことを話し遲れたのをあれ程心に咎めた野枝さんとして、激動の最中にした自分の行爲に對しては左程咎めてゐないのは何故であらう。

忽ちかつと逆せ上るかい思ふと、あとはすぐケロリとして「私の知つたことぢやない」といつたやうな處や、「あゝもういやなこつた、疲れて仕舞つた」といつてポカンとしてゐるといつたやうな處が少しもなくない。（どうも野枝さんにはまだ自分なり。自分のしてゐる事なりなその時々の氣分だけでなく、もつと突込んだ處まで考へるといふ丈の力がないやうだ。この點が非常に弱いと思ふ。考へられない迄も考へたいといふ態度さへ見せなかつたのは誠に物足りない。此處が野枝さんと木村氏との事件に對する態度の根本的に相違する處だ。男の方はいかに疲れ切つて何を考へる氣力のない時でもよく考へたいと丈はいつも思つてゐた。そ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して自分のやつてゐることを出來る丈有意義にしやうと可成り努めてゐた。野枝さんのいつも退避的、否定的なのに反して一方はいつも積極的であり、肯定的であつた。)

私は無意識な、無責任な抑へ處のない在來の所謂「女」に對するやうなたよりなさを感じた。女の心理に元來自分の言行に對して責任を負ふことの出來ぬものなら、そしてそれを左程苦痛としないやうに出來てゐるものなら、しかもそれが女の强味であり、武器であるといふならそれも仕方もあるまいけれど。

かうした動じ易い、或パッションの中に包まれて前後を忘れて仕舞ふ女の心理についてあまり多くの經驗を有たぬ男なら、あの手紙を見て、自分の方へ女が投じて來たものと早合點するに無理もない。さうでなくともかういふ場合は男に共通な自惚が可成り手傳ふものだから。誤解は誤解に違ひないが、咎めることは出來ない誤解だ。殊に木村氏の如き性急な、自己の外、落付いて他を見る餘裕のない程心の張り詰めた男に於ては猶更さうだ。しかも「女の幸福はもう僕の手中に移つてしまつてゐるかも知れない。僕にはどうもさう思はれる。だが併しその幸福は女自身選ぶべきだ。」(索引一〇九參照)と云つてゐるあたりはいかにも尤な、譯のわかつた申分だと思ふ。

だが私がこんなことをいふと野枝さんは乾度斯う云ふに極つてゐる。「でも私にT氏に對

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

する愛はたとへどんなことがあつても變らないといふ自信を常に持つてゐます。今T氏を離れては生きられないといふことは私にとつては考へるまでない程明な極り切つたことなのです」と。

それも野枝さんとしてはいかにもさうであつたらう。私にもその心持はよく分つてゐる。それにしても餘りに落付かなかつたこと、いかにも反省を欠いてゐたといふ謗りは遁れ難いと思ふ。

苦にしつゝ心待ちに待ちあぐんでゐた手紙に對する木村氏からの返事が來た。

(それは前後二通とも讀んで氣持のいゝものだ。木村氏その人の態度に、又生活に、尊敬すべき或ものゝ萠芽はある。けれど それがまだほんものでない。いかにも故さらしい感じがする。この手紙丈には限らぬが 木村氏の態度は Affectation で一杯になつてゐるといふ人があつても一面の觀察としてどうも首肯するより外仕方あるまい。)

これでいよ〳〵自分は木村氏と離れたのだ。今日限りもう二度と手紙も書けないし、逢へないのだと思つた時、野枝さんは今更のやうに何とはなしに悲しく、淋しく、物足らぬ思ひがした。そしてどうもこの儘では別れたくない。今一度逢つて見度いと思ひ、その思ひの可成り烈しい處から、では自分も木村氏に對して多少の戀があつたのかと意識に新らしく浮んでくるあたりは極めて自然な、いかにもさうありさうな心の推移である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この時野枝さんに愁を云はせたら乾度「T氏との戀を少しも傷つけないで、ふたりの間に何の氣まづいことも起さないで、そして木村氏とは親友の關係を持續して行き度い」と答へるに相違ない。

私は野枝さんの態度一つでそれも不可能のことではなかつたらうと思ふ。何故ならもし野枝さん自身があんな落着かぬ態度に出ないで、あの時今少し三人の關係を同時に靜かに考へることが出來たなら、T氏はあれ程寛大な、公平な、自他に對して片よらぬ理解を有つてゐる人だから。しかも木村氏に對しては最初からいゝ感じさへ持つてゐた位なのだから。

私には何とはなしに野枝さんの此の時の心持に同情同感し得るものがある。自分自身ではどう考へても戀愛だとは認められない場合でさへ、いよ〳〵離別となると堪へがたい程の悲しさ、淋しさを感ずることは隨分あるものだ。そしてその男との友情を保つためには可成りな犧牲をも意としないものだ。殊に野枝さんに於ては（これはもとより自分の憶測に過ぎないが。）T氏の中に欠けてゐる或ものを偶々木村氏の手紙の中に見出し、そこに無意識ながら日頃の或渇望が滿たされたのではあるまいか。何故なら、今もいつた通りT氏は非常に萬遍ない理解を有つた尊敬すべき人のやうだが、又聰明なると同時に愛すべき處を有つた人のやうだが、それ丈實行的方面には欠けた人らしい。どうもT氏からは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

情意の緊張した身に迫つてくるやうな力强さといつたやうなものは到底感じられぬらしいから。

そこで私は云ひ度い。野枝さんは自分のかうした氣持から、木村氏に對する「淡い戀」といふものを是認してゐるが、しかもさう思ふことに無理はないやうだが私をして更に云はせるなら、野枝さんの動した感情の中には自から二つに區別すべきものがあると思ふ。その一つはフレンドシップで今一つはラヴだ。しかもそのラヴは決して「淡い戀」などヽいはるべき性質のものではない。寧ろパッショネートラヴとでもいふべきものだつたと思ふ。このラヴは主としてあの當時の野枝さんの生理狀態に原因する閃光的な殆ど內臟や筋肉にばかり係るものとして瞬間に消滅して仕舞つたが、一方は主として魂にかゝはる比較的長き生命あるものとして尙今後も自然にまかせておけば生長發達すべきものだつたと思ふ。

併し男は多くの場合その相手だる女の友情を理解しない。男性に共通な自惚は女性との親友關係を直に戀愛だと早合點させる。そして戀人として取扱はうと只管にあせる。この友情は最後まで友情として終るべきものだる、發展の中途に於て戀愛と變ずるものだかはなほ疑問としても、かういふ時、女はその男の案外自分を知つてくれなかつたといふこと

に對して感る腹立たしさと、輕侮の念とを有つやうになる。そしてこの腹立しさと、輕侮の念が、今迄の厚い友情までも害して仕舞ふやうな不幸に終る場合は隨分あり勝なことだと思ふ。

木村氏も亦實にかゝる男の一人であつた。

併し野枝さんの信用を益々失つたのは只それ丈ではない。なほ他に木村氏にとつては可成手痛い重大な理由がある。

第二の會見に於て木村氏は女の前に見事に落第した。

それは木村氏から受けた野枝さんの直接印象は手紙を透して感じたそれとはあまり相違してゐたといふことだ。木村氏の人格そのものゝ價値が書いたものゝ價値よりも遙に劣つてゐるやうに思はれたといふことだ。野枝さんはこの時の感じを只

「やがてその人は話しはじめました。(中略)その調子は極く輕くて、口早なので、まとまつたものとして頭に入つて來ないのです。聞いてゐる時には一度合點が行つて、よく分つたのですが、いまかうしてあなたにお話しながらその會話を思ひ出さうとしてもきれ〲しか思ひ出せないで、話の順序すらはつきりとは浮んで來ないのです。言葉の上では書く事と、ちつともちがつた事を云つてゐるのではないのですが、どう云ふものですかかなりにパッショネートな言葉を用ひてゐても言葉だけ私の耳に入つて、本體のパッションらしい何物も私に來ないのです。私はそれが今も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

どうしても分らないのです。若しかしたら先きの人の持つてゐる情熱をうける力が私にないのか、それともさういふ感受性が私のその時の氣分からずつとはなれてかくれてゐたのかもしれないと思ひますが、それにしても私はあの木村氏自身に仰言るほど强烈に情熱が炎えてゐるものなら、ああは口には出るものではないだらうし、またどうしても云はずにはゐられない性の人だとしてもそれならそれでもう少し、私の方に共鳴する何ものかゞなくてはならない筈だと思ふのです。(中略)それに御話の調子が極く輕くて、力を入れて話してお出になる處でもそれが自然でなくて、殊更にといふ感がはなれないのです。兎に角私の氣分がそれですつかりそれで仕舞つた譯なのです。御手紙で感じた時のやうに、壓しつけられるやうなどつしりした力を感ずる事も出來ませんし、同時に餘裕を與へないで迫つて來るやうな處も感じません。」

とそのまゝを書いてある丈だが、この中に木村氏の生活、從つて其生活の一部である戀愛の大なる或弱點が潜んでゐはしまいかと思はれる。尤も私はこれが或錯誤のもとでの會見であつて、二人の心はこの時隨分はぐれても居たし、お互の考への間には己に大きな間隙が出來てゐたといふことも、木村氏は急き込んでゐたし、野枝さんは激動の結果疲れきつてゐたといふやうなことも忘れてゐるものではないが。

なほこの會見に於て野枝さんの自尊心を傷け、ひいて木村氏に對する尊敬の念をひどく減じさせたことがある。それは木村氏が案外自分を解してゐないのみならず自分の眞價を認めてくれてゐないらしいのに氣付いたことと、木村氏の友人によつて、自分が輕蔑してゐる「世間知らず」の女主人公のC子と比較されてゐたことだ。是等のことに或る腹立たし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

さ、氣まづさを感じたのは野枝さんとしていかにもさうありさうなことだ。附言しておくが、C子の如き思切つて、しかも不快なほどセンシュアルな感じを人に與へる女は異性によつてのみ或價値を見出されるもので、同性からは多くの場合輕蔑される種類の女だ。殊に野枝さんの如き女からは輕蔑にも價しない女のやうに見えるかも知れない。

次に私はT氏に對する野枝さんを述べ、最後に三人の會見に及んでこの稿を終りたいと思ふ。

木村氏と自分との交渉がT氏にどういふ感じを與へるだらうかといふことは野枝さんの最初からの可愛いい心配だつた。その心配は事件の發展と共に進んで、見せずに出した二通の手紙のあることに思ひ至つた時、野枝さんはもうまともにT氏の顔を見てはゐられなかつた。私はそこに愛するものの心でなく、愛されるものの心を見た。人を愛さうとするよりも、愛されやうとする野枝さんを見た。嫉妬してゐる女の弱味といふものも多少手傳つてゐるのかも知れないが野枝さんの中になほ女らしい女の心の多分にあるのを見た。殊に手紙に就いて問はれた時、とうと誤魔化して仕舞つて、「別に大したことも書かなかつたやうだ」などと思ひながらいつか眠て仕舞ふあたりは弱者である女の「かよわい強さ」を心憎

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い程惑じさせる。あんまり子供らし過ぎるといふより外私には何の言葉も見出し得ない。

今迄可成り寛大に見過してゐたT氏も、野枝さんの態度を不明瞭と見た時、烈しい嫉妬をもつて對した。そして「お前の心が動いてゐるのなら靜かに別れやう、その方がいゝだらう」とまで遂に云ひ出すやうになつた。

ここで野枝さんは苦悶の極殆ど痛ましい迄の惑亂に陷つた。一旦は烈しい反撥的なパッションからT氏からもいつそのこと離れて、ほんとの一人になつて自分を育てて行かうかとまで思ひ詰めたが、その反動は又更にT氏なしには生きられないことを明に意識させた。

野枝さんはこの混亂の中でお國のお父さんに手紙を書いてゐるが、嘗てT氏との自由戀愛を遂げんが爲め、背いて來たその親に、かうした時、かうした心でふと手紙を書く氣になつた悲しい、淋しい、空虚を感じてゐる野枝さんの若しい心持が無暗に可哀相なやうな氣がして出來ることなら相談相手にでも出かけたいやうな氣持になつた。ふだんに潜んで分らずにゐた親子間の愛情の微妙な動きを思はせられた。

そして遂にT氏の望むがまゝに、寧ろ急き立てられたといふ形で、野枝さんはT氏と一緒に木村氏の前で其態度を明にすべく氏の家へと出かけた。

かうして事件はともかくも解決されたのだが、日頃の野枝さんを知つてゐる私にはあの解決の仕方は野枝さんとしては少し恥づかしいものではないかと思ふ。野枝さんが今少し強くて、あの激動の中にあつてもなほよく自己を最後まで保つてゐられる人だつたなら、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

T氏にあゝ迄干渉されずとも（T氏は決して好んで干渉する人ではない。）あんな不面目な位置に（自分のしでかした事件の解決をT氏に委ねて、自分はT氏に引きずられて出かけたといふやうな）身を置かずともいくらも自分で處置する方法はあつたらうと思ふ。

それはともあれ、全體としてあの事件は野枝さんには少し荷が重すぎた。あれ丈の激動をもち答へる丈の力はまだ野枝さんにはなかつた。だから時として激動に食まれて、いたづらに精力を浪費するのみで、あれ程の苦悶も比較的價値なき苦悶に終つた處のあるらしいのは惜しいことだつた。

けれど私はあの一篇が野枝さんにとつてどれ程の力であるか、又どれ程の眞實をもつてかゝれたものであるかといふことは信じて疑はぬものである。

最後にここでは木村氏とT氏に關する自分の感想は成るべく語らないやうにしたといふことを御斷りしておく。（終り）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社詠草

三ヶ島葭

嘆く日はこの世のかぎり變らじとちかふ心も足らはざりけり

新しく愁ふる我の何故ぞ空ゆく鳥の心地せらるは

わが家にやどりかねたる旅人が臥しけむさまにすすきなびける

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なやましさむしろかくせば癒えなむとちがや
に切りしをよびならねど

さればとて近づけばとて待てばとて戰ふにて
はあらざりしかな

身一つをしづめかねたるかなしさにそぼふる
雨を見つめてありぬ

秋となる今年も山に赤き實の初霜待つと思ひ
たまはむ

別れては月日とともにうすれゆくみ影ならむ
と泣くもけふのみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

影のごと君があとゆく我に見てさまよふさまのをかしかりけむ

君を見て足らひしままのわが心木の葉となりて秋風に散る

この胸は打たれて鳴るにとゞまらず誘はれて鳴く小鳥なりけり

堪へがたしわれの心は苦しきに來りて責むるものも無ければ

山田須美

黒髪もいたはらである戀ざめの女の家に更けてゆく秋

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

悲しきは我か淺間しく亂れたる心の上に君を
おくこと

戀はれにき君を戀ひぬといふ外に何も思はじ
見返りもせじ

やゝ背く心をもちてあじきなく逢ひにゆく日
の初しぐれかな

來し方のうとましかりし事ばかりさゝやく如
し秋の夜の雨

片野珠

病める子と悶ゆる母と手をとりてゆくに慰む
旅路はありや

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

子をめづる心いつしか友と視る悲しき眼ぐしてありけり

母は子に子は母に我を見出してゑみぬなげきぬある日ある時

富士をあふぎ海をながめて母を思ふあけくれをさは吹くな秋風

子を持てり母おはせりとある時は重荷のやうになげきても見つ

かゝる夜をわが住みすてし野の家のあたりさまよふ人はあらじか

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

村木きよ

そばの花うなづく方に君あるも旅のあはれの數にもれめや

父君よ君が涙にうら若き我半生は暗くにじみぬ

泣きぬるゝ胸に靜に浮び來る七十年の父が來し方

さればとて慰もせず衰うる孤獨の父を守りて只なく

すなほにも涙流してすゝりなくやさしき我はいづこ行きしぞ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しきこの若きほがあざけりを浮べて泣くか
あはれ痛まし

すべて皆あはれ現と思ひえぬ君に怒るも旅に
出づるも

恐しき怒ふとやむいたましく胸をゑぐりて思
出の浮く

伊藤智惠

何か知らぬ心の飢に打もだし日に向ひゐしが
泣きたくなりぬ

胸ぞ燃ゆ蒼空のもと朝の日に光りて風に木の
葉ゆるれば。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

曇り日を風にゆらげる一樹ありわが悲しみを
吸ひてはてなし

しみ〴〵と君戀しさに泣きぬれし顔うつし見
るまろき手鏡

物思ひあるに何ぞや妹は子を抱かしめに來ぬ
部屋のかはたれ

秋のあさわがはく足袋の眞白さにふといざな
はれたる淋しきこゝろ

何時しらず机にもたれうすぐらき部屋になみ
だを流してありき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ソニヤ・コヴレフスキイの自傳

——野上彌生子譯——

ターニヤ・ラヂェフスキイの最初の思ひ出には、きつと旅行と云ふ事が伴なつてをりました。後年になつて目をつぶつて坐りながら、自分の生涯で初めて意識した印象を思ひ廻らすと、兩側に白樺と里程標の並んでゐる廣い土埃つぽい道と、その道に添うてのろ〳〵動いてゐる、ノアの箱船ほどもあらうといふ一つの大きな旅行馬車が見えます。時々アニウタの人形を馬車の窓から投げ出したり、石を拾ひ上げたりして旅行の退屈を紛らします。よく幾夜も宿場に泊つて、こち〳〵した狹い長椅子の上に拵つた假造りのベッドに寢たり又はたゞ椅子の上に泊る事もありました。ターニヤのお父さんのイヷン・セルゲゼヴィチ・ラヂェフスキーは砲兵の將官で、公務上の用事でよく旅行しなければなりませんでした。そんな場合には彼は大低家族を一緒に連れて參りました。

ターニヤが五つの時、ラゼフスキー家は暫くカルガに住まつてをりました。三人の子供があつて、二人は娘、一人は男の子でありました。その時お姉さんのアニウタは十二で、

フェディアと呼ぶ弟は二つでありました。此子供達の育兒室は廣い、天井の低い部屋でありましたが、餘り低いので、ニャーニャと云ふ露西亞生れの保姆が椅子の上に立つとその天井に觸るほどでありました。皆んな三人の子供達は其處で眠りました。アニウタは、皆んなして佛蘭西の案山子と稱してゐたその家庭教師の部屋に居る筈なのでありましたが、厭なので矢張り他の子供と一緒に居りました。

ニャーニャには彼女が自慢にしてゐる一つの大きなベッドがありました。それは枕や毯毛で山見たようでありました。時々子供達はそのベッドのてつぺんによぢ登る事を許されました。而してその鳥毛の海の中に飛び下りるのを非常に面白がりました。

此育兒室にはいつも香と、牛脂の蠟燭と、油と、ナザニアがいつも痛風につけてゐる樺の樹の油の交り合つた特有の臭ひがありました。

家庭教師はその厭な臭ひを嗅がぬように手巾（ハンケチ）を鼻にあてゝぬ以上は決してこの部屋には這入つて來ませんでした。

「本統に窓を開けなくちやいけませんよ、ニャーニャ！」

と彼女はまづい露西亞語で呼びました。ニャーニャは此命令は自分を侮辱されたものだと思ひしました。

『へえ』と彼女は歯の間でぶつ〳〵申しました。『毛唐人奴が！なぜ窓を締めなきやならないの。お子供衆が風邪を引いちまわあね。』

毎朝ニャーニャと家庭敎師の間には小ぜり合ひがありました。

日がたけてゐます。朝日は部屋一杯にさし込んでゐます。だん〳〵と子供達は眠い眼を開きましたが、それでもまだ起きようとは思ひませんでした。先づ足の引つ張り合ひつこをしたり、おしやべりをしたり、枕戰爭をしたり、ベッドの中で一と遊びいたすのであります。

すると珈琲の快い匂ひが部屋を滿たします。たゞ半分だけ着物をつけて、寢帽を絹の手巾――いちん日中ずつとつけてゐる頭飾りに更へたナザニアは、大きな珈琲の罐を載せたお盆を運んで來て、寢床にゐて、顏も洗はなければ髮もかきつけないまゝで珈琲だの甘パンだのを子供達に與りました。これがすむと前の遊戲に草臥れてよく二度寢をする事がありました。

突然どんと戶があくと、閾の上に怒つた家庭敎師が現はれます。

"Comment, vous êtes encore au lit, Annette? Il est onze heures; vous êtes de nouveau en retard pour votre leçon!"（おやアンネット、まだ寢てゐらつしやるんですか、十一時

ですよ、また學課に後れてしまひますよ）と彼女はもどかしげに叫び出しました。『よくそういつまでも寢せて置けますね。將軍に申上げますよ。』と彼女はニャーニャの方をふり向いて申します。

『さつさと申上げるのがいゝや。おべつか者。』とニャーニャは家庭教師が戸口から出て行くと齒の間で呟きます。『將軍さんのお子達だもの。なせ好きな程寢させていけないんでせう。學課が遲くなるつて。それがどうしたと云ふのさ。お前さんがちつとやそつと待つたつて何も文句はないぢやないか。』こうぶつ〳〵は云つたもの丶、ニャーニャも少しは急いだ方がいゝと思ひます。全くのところ斯うして前騷ぎの長い割には、支度は造作もありません。ニャーニャは濡れた海綿で子供達の顏や手をなすり廻はして、縺れた髮毛に櫛を通して、着物を投げかける。きちんとしてる時もあれば、だらしのない時もありますが、それでまあ支度の出來た事になるのであります。

アニウタは勉強に參りますし、他の二人は育兒室に殘ります。こんな子供達がゐてもお構ひなしでニャーニャはぱつ〳〵塵埃を立てながら床を掃いたり、ベットに布團を置いたり、自分のベットの絨毛を振つたりして、お掃除の段取りが濟みます。ターニャとフェディヤは長椅子の上で遊びます。この二人は余つ程お天氣でもいゝか、又お

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

祭りの時ニャーニャがお寺に連れて行きでもしなければ、滅多に散歩に連れ出される事はありませんでした。

學課が濟むや否や、アニウタは急いで育兒室へ參ります。彼女には育兒室は勉强室よりもずつと好きでありました、殊にニャーニャの所には話好きなお客さんが澤山あつてニャーニャと一緒に珈琲を飮んだりするので尙と好きでありました。

育兒室の戸が開いて、一人の美しい若い貴婦人が、立派な絹着物を着て、髮毛に花をつけたり、黄金や寶石の美事な裝飾品をつけたりして現はれます。それはターニャのお母さんのエレナ・パウロヴナであります。おつき合ひ仲間のところへ出掛るので子供達に左樣ならを申しに來たのであります。

アニウタは走りかゝつて行つて手だの頸だのを接吻で蔽ひます。それからお母さんのいろんな裝飾品を調べます。『私が大きくなつた時には、母さん見たゐに綺麗にならなきやならないわ。』とアニウタはお母さんの頸飾りをつゝきながら申します。それと共につゝ立つて姿見の中の自分を美しいと思ひます。

ターニャがお母さんを抱擁うとしたり、膝に上ろうとしたりしますと、いつも何かしら間違ひを仕でかすような事になりました。お母さんの着物を裂くとか、そうでなければ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

いきつと傷をつけるとかいたしました。そんな時にはターニャは驚いて隅つこに隠れて了ひます。これで少しお母さんを怖がるようになりました。その上ニャーニャがよくアニウタとフェディヤはエレナ・パウロヴナのおたからつ兒で、ターニャはおはしたゞと申しました。

　アニウタは他の子供達よりはずつと大きいので、非常な特典を持つてをりました。全くのところがアニウタは何事には自分一流のやり方をしてをりました。彼女は行きたければいつだつて應接室に參りました。而してずつと小い時からその美しさや、チャーミングな振舞ひと共に恰好な受け返答を賞められてゐました。ターニャとフェディアはお祭日の時だけしか應接室には出られませんでした。二人は晝食も夜食も育兒室ですることになつてゐたのであります。

　時によるとナスタシャと呼ぶラヂェフスキー夫人のお附の女中が育兒室に駈け込んで參ります。

『ニャーニャ、大急ぎ、お客様にお出しになるんですからね、ウェディヤに青い絹の上衣をお着せなさいよ。』

『ターニャはどうするの？』とニャーニャは返事は承知してゐると云ふような調子で尋ねます。

『ターニャはいゝのよ、此處にぢつとしてりやよござんすよ。薄ぎたないちびさん。』と女中はニャーニャが氣に病むだらうと云ふ事をようく知つてゐるので笑ひます。

するとその通りで、ニャーニャは全く意地の惡い事だと思うので、齒の間でぶさくさ云つて、部屋の中を往つたり來たりしながら小さい娘を憫むように見やります。而して時々その髮毛をつゝきます。『可愛想にね。いゝ兒だ。いゝ兒だ。』

夜であります。ニャーニャはターニャとフェディヤを寐せましたが、自分はまだその絹の手巾(ハンケチ)を外しませんでした。これはもう仕事が了つて、寐る時になつたと云ふしるしでありました。彼女はナスータシヤと長椅子の上に坐つてをりました。

部屋は半分暗くなつてゐます。たゞニャーニャが心(しん)を切るのを忘れた牛脂の臘燭の鈍い焔と、部屋の向側で、或聖者の像の前に燃えてゐるランプのちら〳〵する靑つぽい光が、天井から映つてゐるだけでありました。その天井には二つの火影でいろんな夢幻的な形を拵へてゐます。而して絹の上衣の下から祝福を與へようとしてさし延してゐる聖者の手がくつきりと際だつてゐます。

ターニャは弟の正しい呼吸と、獅子ッ鼻のフェクルースカと呼ぶ下女の重い鼾聲を聞きました。フェクルースカは煙突の前の床に灰色の毛布を敷いて寢てゐるのでありますが、

その毛布は夜だけ其處に延べて、日の中は押入れに仕舞はれるのでありました。

ニャーニャとナスターシャはひそ〳〵と話合つてゐます。子供達はすつかり寢て仕舞つたと思つてるので、遠慮なく家内向きの事を何かと噂してゐます。けれどもターニャは眠入つてゐないので、注意深く二人の話に耳傾けました。大抵は呑み込めない話だの、氣にするにも及ばない事なのでありました。お仕舞ひまで聞きもせず寐入つてしまう時もありました。けれどもターニャに分つたきれ〴〵の話は、深くその心に刻みつきました、而してそれからそれへと空想するようになつて一生涯消えぬ跡を留めてゐました。

『あのいゝ兒の小つちやい者を可愛がらないでゐられるものかね。』とニャーニャは申します。ターニャは誰の事を云つてゐるのか分りました。『私より外には誰もあの兒の世話をしてあげる者はないんだもの、あとのお子達とは大違ひだつた。アニウタの生れた時には、親御なり、お祖父様、お祖母様なり、又伯母様方なりちやほやしたものだ、――最も御總領だつたからねえ、一寸とだつて私の手に渡るような事はなかつた。でもターニアはと云ふと大違ひだつたわ。』

幾度も繰り返されたその話の中で此處に來るとニャーニャはいつも仔細ありげにその聲を落しました。勿論ターニャも力一杯聞き耳を立てました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『そのお兒はまア運の惡い時に生れた譯なのさ。』とニャーニャはひそ〳〵聲で申します。『將軍樣が英國倶樂部でカルタでうんと耗つたので、奧樣の寶石を質に置かなければならかつたのさ。こんな時に女のお兒の生れたのが悅べやしないぢやありませんか。ここにお二方とも男のお兒を欲しがつてゐらしたんだからねえ。奧樣は『ねえ、ニャーニャ、今度こそ男の子だよ。と仰しやつてゐらしたつけ。』それで奧樣はお守り(耶蘇受難の像の事)だの、青い蝶結びをつけた帽子だの、何もかも男のお兒の支度をしてたんだろう、其處へ女のお兒だつたのだから全くがつかりなすつたのさ。でもとうとフェディヤが出來たから丁度だつたわねえ。』

この話とか、又それと同じような話とから、ターニャは自分は自分の家ではたゞ仕方なく置いて貰つてゐるのだと云ふ事が直ぐと分りました。而してこれはその性格に非常に影響いたしました。彼女ははにかみやの無口になりました。それ故應接室に連れて行かれた時でも、兩手でニャーニャの着物にしがみ付いてゐて、非道くむつちりしてゐました。ニャーニャがどうにかして云はせようとしても彼女から何か一と言絞り出すことは迚も出來ませんでした。狩り取られた牝鹿のように、目の前の人々を臆病らしく眺めてゐる計りであります。とうとお母さんはもどかしくなつてニャーニャに申します。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『あちらへ連れておいで、この兒には全く極りが惡くなつて了ふ。』

ターニャは又はたの子供にも臆病になつてゐて、誰とも滅多に逢ふような機會はありませんでした。散歩に出てゐた時、ターニャは或時學校生徒の騷ぎ廻つてゐるのを見たのでニャーニャにあんな子供達と遊んでいゝか聞いて見ました。『飛んでもない。』と保姆は答へました。『あなたはお孃樣ですよ。あんな兒達とは遊べません。』此言葉はターニャが全く自分で恥かしいと思つた程の侮辱と非難とを以つて申されました。とうとターニャは他の子供達と遊ばうともしなければ、遊び度いとも思はぬようになりました。同い年位の小さい娘が訪ねて來るような事があつた時には、ターニャは何と話していゝものか分りませんでした。彼女はたゞ『あの人は行つて仕舞へばいゝのに。』と思ひつゝけました。

ニャーニャと丈けゐる時が一番幸福でありました。夜になつてフェディャが寢着くし、アニウタは客室に行つて仕舞ふと、ターニャは長椅子の上で保姆に抱かれます。而してニャーニャはお伽話を聞かせ初めます。子供は非常に感じてゐました。而してその話に聞いた狼憑だの十二の頭を持つた蛇だのを夢見ました。

實際彼女は斯んな風で弱々しい、多感な娘となりました。けれども新らたな生涯が直ぐと初まる事となりました。(つゞき)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□瀬沼夏葉さんは御病氣なので、「イワノフ」は本號には掲載することが出來ませんでした。らいてうの「戀愛の進化」は頁數の都合で今度丈休みました。「染井より」はとうとう間に合ひませんでした。

□野上彌生子さんのソニアコワレフスキーの自傳は、大變たのしみにして居ましたのに原稿が遲かつたので、とても本月號には載せられまいと思つて居ましたが、幸と間に合ひました。これから毎號頂ける筈です。

□今度編輯の方はらいてうと哥津ちやんとで引き受けることになりました。ふたりとも奮發してこれから內容にも編輯の仕方にも今一層注意すると意氣込んで居ます。

□本月から靑鞜社と東雲堂とは關係のないことになりましたから左樣御承知下さい。

□今度販賣に關することは總て尙文堂宛に願ひます。(但し直接購讀者に關する事務は社の方でいたします)

□廣告申込、交換廣告原稿は總て本社宛に願ひます。御間違ひにならぬ樣御注意を願ひます。

□野枝さんの譯したエレンケイの「戀愛と倫理」と、マ、ゴルドマンの「婦人解放の悲劇」とを一册として月上　東雲堂から發行します。らいてうが序を書きました。

□社員の上野葉子さんは久しく御病氣でしたが、大分御快方のさうです。其內何か御書きになるといふこと。

□新入補助團員、荒木郁、山田わか、伊藤智惠、上田君望月れい、山田須美、松井靜代、濱野雪、加藤みどり。

□補助團會費十月分旣納者氏名
靑木穠、柴田かよ、安田皐月、坂本眞琴、丸島白百合、齋賀琴、片野珠、平塚明、保持白雨、濟川二葉、西端さかえ、

□未納の諸姉は十一月分と共に「振替口座東京二一一一六靑鞜社」に御拂ひ込み下さい。市內の方々には集金人を差出すやうに申上げましたが、只今社の事務か多忙で手廻りかねますから御手數でも振替口座へ拂込んで頂きたいのです。
萬一郵券代用の方は一割增に願ひます。(靑鞜社補助團會計係)

紹介

□奧村博氏の作品(油畫)をほしいと云ふ人が大分にあるしそれにまだそれ程多くの人に知られてゐない君を、一般高級な藝術愛好者の間に是非紹介したいといふ希

望から、並に津田青楓氏、前田夕暮氏、相馬御風氏、田村俊子氏、山村暮鳥氏、朝倉文夫氏、宇和川邉通氏、本社のらいてう、岩野清子氏、中野初子氏 白雨等が發起して同氏の畫會を起した次第です。氏の藝術に同感し共鳴を感ずる人々に、是非此畫會に入會していただきたいと思ひます。

猶氏は大正三年春東京（會場未定）に於て作品展覽會を開かれる筈です。

□甲八號　額縁付　十二ヶ月拂　毎月貳圓
□乙スケッチ板　同　八ヶ月拂　毎月壹圓半
□丙スケッチ板（小）同　五ヶ月拂　毎月壹圓

拂込の最初の月に、申込順に作品をお送り致します。

申込所。（申込とともに最初の分を拂込んで下されば、あとは月々集金郵便をさしあげます。）

東京府下大久保西大久保二〇一白日社内 奥村博氏畫會
東京小石川區原町十三、宮崎方、奥村博氏畫會

□國木田獨歩氏を記念したいために田山花袋、柳田國男、前田晁、中澤臨川、沼波瓊音、吉江孤雁等の諸氏の發起で氏の遺兒の敎育、井の頭辨天社内に大理石の碑を立てること、氏の遺筆寄墨等を探してそれを完成すること、氏の名のもとにゴンクールアカデミイのやうなものなどもやつてみたいといふやうな計畫で左の方法により資金を集めるさうです。一、期限大正三年五月末日まで、一、金額五十錢以上、一、送金先 東京市麹町區元園町一の廿七、中澤臨川氏宛。

□『北原白秋氏を中心とする詩歌の結社創立さる。その名を巡禮詩社と成し、當分相州三崎二町谷見桃寺内に置く。なほ、同詩社にては今月より愈社友を募集し、追つては最も匂高き純詩歌の機關雜誌『地上巡禮』を發刊し、併せて新詩、小曲、短歌等の通信敎授を開始す、この際その詳細の内規を知らむとする人は右宛郵券二錢相添へ至急申込まるべし』とのこと。

靑鞜社新社員名簿（いろは順）

岩野清　伊藤野枝
岩淵百合　林千歳
西崎花世　小笠原貞
岡本かの　片野珠
上野葉　保持白雨
安田皐月　牧野君江
小林哥津　青木穠
淺野友　坂本眞琴
三ヶ島よし　柴田かよ
平塚明

補助團會員名簿

青木穰　柴田かよ
安田皐月　坂本眞琴
丸島春枝　齋賀琴
片野珠　平塚明
保持白雨　清川二葉
西端さかえ　岩淵百合
木村政　市原次惠
小林哥津　岡本かの
伊藤野枝　柳清美
伊藤智惠　上田君
望月れい　松井靜代
山田わか　荒木郁
加藤みどり

十月號寄贈雜誌

モザイク　ホトトギス　河鹿　創作
サンデー　中央公論　早稻田文學　生活と藝術
スバル　婦人評論　みづゑ　假面
創造　藝文　心の花　六合雜誌
處女　新人　新女界　近代思想
詩歌　クヮルテット　第三帝國　審美
婦女新聞　道案内　歌舞伎新報　護敎
層雲　自由評論　女學世界　新小說
白樺　新潮　歌舞伎　帝國文學
三田文學　相對

寄贈書籍

死の勝利　ダヌンチヨオ著　石川戯庵譯
ニイチエ研究　和辻哲郎著
予の世界　安倍能成著
死の歌　スーデルマン著　鈴木悦譯
アンナ、カレニナ上卷下卷　トルストイ著　相馬御風譯
劇論と劇評　中村吉藏著

（紹介は總て次號で委しくいたします。）

面會日變更

毎週土曜日午後一時より四時まで

らいてう
白雨
野枝
哥津

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

舞踊研究會大會

開演――十一月二十九日、三十日午後四時
會場――京橋區木挽町歌舞伎座

振事劇『江島生島』尾上菊五郎、市川猿之助
阪東三津五郎、市川翠扇
新舞踊『嫦娥』藤間勘十郎、藤間政彌
其他研究會員、

其他曲目未定のもの有之、大阪山村舞も上場いたす筈、御申越に由り細目御送り申可候

會費
特等――貳圓、一等――壹圓五拾錢
二等――壹圓、三等――參拾錢

京橋區新佃西町三丁目五
舞踊研究會事務所
（電話京橋三四二六）

舞臺協會公演

■來十一月

廿八日（金）
廿九日（土）
三十日（日）

於帝國劇場

毎夕午後六時開演

■

ジョーヂ・バーナード・ショー氏作
舞臺協會譯

惡魔の弟子

—三幕—

■

ヰルヘルム・フォン・ショルツ氏作
森鷗外博士譯

負けたる人

—一幕—

■觀劇料

特等二圓八十錢
一等二圓五十錢
二等一圓
三等五十錢
四等廿五錢

■俳優

加藤精一　川井源藏　金井謹之助　横川唯治　小牧淑　佐々木積　森英治郎　和泉房江　林千歳　宮部靜子　其他

舞臺協會事務所

府下荏原郡上大崎町字長者丸二七三

戀ごころ

人見東明著

素直に、少し優しく伸びんとする生命のデリケートな呼吸、光明界へ進み出でんとする力の流露せる詩八十余篇を收めて今や本書なる。これ悉、夜の舞踏以後に發表せる快心の作のみなり。若き心に芽を吹かんとする生命の力を味はんとする者にとりては殊にその光と熱とは鮮かなるべし

十一月十日發賣

定價金六十錢

創造

毎月一回

一日發行

誕生五十年紀念

デエメル號

- デエメル自叙傳（翻譯） 片山孤村
- デエメルの思想（評論） 小野秀雄
- デエメルの藝術（評論） 福田夕咲
- デエメルの劇詩（評論） 仲木貞一
- デエメルの横顔（感想） 仲田勝之助

挿畫 □デエメルの肖像□デエメルの二夫人□デエメルの戯畫□デエメルの家庭□

- 遊離（小說） 清浦青鳥
- 蜘蛛（小說） 岸田劉生
- 死の方へ（戯曲） 仲木貞一
- その刹那 人見東明
- 見ぬ戀 加藤介春
- 秋の夜 福田夕咲
- シーウーノの面 村雲毅一
- 獨斷詩論 福士幸次郎
- 毒藥の壺 相馬御風

發賣所 東京神田區雉子町三四 東京堂書店 特價三十錢 郵税壹錢五厘

編輯所 東京市小石川區雜司ヶ谷町百四十 創造社 （社友 短歌 [illegible]）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

十一月一日發行

■アララギ■

■伊藤左千夫追悼號■

本號特價　卅錢

伊藤左千夫年譜	森鷗外
記憶のまゝ	長塚節
人格の人	中村不折
左千夫君の死	高濱虛子
熱誠の人	與謝野寛
名古屋の一夜	佐々木信綱
春閣時代	岡麓
伊藤左千夫翁	若山牧水
左千夫君の文學	坂本四方太
左千夫君の訃	土岐哀果
牛飼左千夫	赤木格堂
左千夫君	鐵眞
伊藤さんと私	野上白川
左千夫翁のゑはがき	平福百穗
左千夫君逝く	香取秀眞
左千夫君のこと	津田青楓
儼々たる顏	高島米峰
伊藤君と僕	山田三子
左千夫氏の面影	澤田信太郎
最後の九十日間	蕨桐軒
子規沒後の一年間	木村芳雨
左千夫先生のこと	山宮允
思ひ出づるまゝ	胡桃澤勘內
記憶を辿りて	村上[illegible]室
レプタに代へて	新井洸
思ひ出づるまゝ	鶴田丑吾
わかれ	上[illegible]文朗
先生のことゞも	齋藤茂吉
終焉記事	古泉千樫
寫眞十數葉	

東京本所區南二葉町二十三
アララギ發行所

此廣告に依り御申込の方は（靑鞜）に依る旨御附記を乞ふ

夏目漱石先生序　野上彌生子譯

傳說の時代

▲▲最新刊▲▲

菊判美裝約八百頁
挿入寫眞五十枚
希臘古彫刻等皆珍品
定價金二圓
郵税金十二錢

文藝界の大寶庫

神と英雄の物語

▲文學者の寶典―畫家の畫題―說教者の材料―家庭の好讀物也
▲近代上代を通じ西洋文藝を味ふには神話知識が根本的必要也
▲此書は希臘羅馬の神話を初め埃及北歐印度西藏の傳說を含む
▲原書はヴァージルオヴィッド以下一千餘種古典研究の產物也
▲小說よりも面白く書かれたる人間の想像力の無限大を示せり
▲譯者は今日迄此翻譯の如き興味を以て勞作を續けたる事無し
▲挿入五十個の寫眞は二千年前の彫刻を初め悉く古藝術の珍品

東京市神田區
南神保町十六
尚文堂書店
電話本局四二五四
振替東京一九三四四

モザイク

拾壹月發行第拾九號內容

二人の死（小說）……山本露葉
人生と藝術（評論）……太田善男
片目の地獄太夫（小說・五十頁）……水島爾保布
挿話（戯曲・シュニツレル）……秦豐吉譯
聖アントアヌの誘惑（小說・フロオベル）……藤井伯民譯
都會の手（小說）……西田長左衛門
ドイツエ座の「生ける屍」（劇信）……生田葵
文展を評す（批評）……水島爾保布
三の劇場にて（批評）……山本露葉
十月の創作（批評）……西田長左衛門

定價金拾錢郵稅弍錢九厘・六冊壹圓八十錢

東京市下谷區 モザイク社 中根岸町六九

月刊美術雜誌

みづゑ

第百五

十月三日發兌

送料共廿五錢

■挿畫■

一 出雲路水彩畫（原色版）……中澤弘光
一 風景（同）……松山忠三
一 花（同）……相田直八
一 湖（同）……故大下藤次郎
一 夏の朝（水彩寫眞版）……松山忠三
一 停車場（同）……佐藤一志
一 其他水彩畫寫眞版數葉

■記事■

一 、……坂本繁次郎
一 水彩畫の前途……中川八郎
一 景色と畫家……齋藤與里
一 色彩餘話……石川欽一郎
一 風景描寫法……丸山晩霞
一 木曾街道六十九次の繪畫……小島烏水
一 續、靜物畫……鵜澤四丁
一 おにぎと小紙……佐竹永湖
一 岡氏の美術協會展覽會の水彩畫……藤川勇造
一 旅より……小城基
一 其他

みづゑは本邦最古にして且唯一の水彩畫專門研究雜誌なり水彩畫を描く人は勿論愛好する諸士は一日も本誌を座右に欠く可からず

發行所 東京小石川關口駒井町 振替口座東京六九六三番 春鳥會

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

◀斯の生活・斯の藝術▶

■第三號發行■

青年の間に同志を求む■

生活と藝術

菊判七十二頁
定價一冊十八錢
送料一錢
六ヶ月分一圓八錢

■生活の革命（評論）……仲田勝之助
□みな一しよに…（詩）哀果
□プランタンの夜……原田讓二
■端的な要求（評論）……相馬御風
□伊庭孝一座……楠山正雄
□教室より……矢口達
■發達（歌）……土岐哀果
■新しい男……堺利彦
□記憶のため……T・A
□文展概評……黑田鵬心
■ルバシカの着ごこち（感想）……杉村楚人冠
□藝者と芝居（詩）……西村陽吉
□MEMO……哀果生
■その朝（戯曲「新好色一代男」の一）……仲木貞一

發行所　東京市日本橋區檜物町九（振替東京五六一四）　東雲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

□

十四號（一一—六八）第一年前半期分　…三六〇

主たる内容

春的經驗　春的氣分
春的性感
熟睡に伴ふ醒覺時の遺精の一例
週期末の特徵（男に於ける）
自慰の意義及び效果　一、二、三、
自慰の實例（女に於ける）一、二、三、　エリス
自慰の習慣の性的分布　一、二、　エリス
性友及び戀人（非春的性愛と春的性愛）一
幼年時代の性愛　…ル
少年時代の性愛　…ル
週期末の煩悶の實例　一、
睡眠中の春的經驗の一例
睡眠中の自發性春的經驗
捉へられたる自慰

以上

□

私は性的生活の研究を致して居ります。
本年一月以來「相對」と題する研究誌を出して居ります。
「相對」には感想、報告、解說などが載せてあります。
號數は只今の所では、一年分一冊…頁内外となつて居ります。
「相對」は相對會員に限り配布することに致しております。
會費は半年分金九十錢、一年分金一圓八十錢（前納）と定めております。
御入會下さいますならば仕合せに存じます

大正六年十

東京本郷駒込林町二三　小倉清三郎

村田實一座

新しい女の芝居。劇界の大革命

イエーツ作（仲木貞一譯）

愛蘭 詩劇

幻の海　一幕

詩と言葉の芝居。海賊の巨魁と武島の王妃との戀物語。美しい「とりで」獨特の演劇美術は發表さる。妙へなる立琴の響。青白き月光。柔い帆布。淋しき孤燈。白刄。……美しき女の夢!!!

ショウ作（村田實譯）

喜劇的 社會劇

ヲーレン夫人の職業　四幕

「青鞜」の愛讀者は必ず見るべし。新しき女は誰れ？平塚らいてう氏か、伊藤野枝氏か、ノラか？ 眞に新しき女は、ヲーレン夫人の一人娘ヸヸーなり。新しき女は勝ちたり。見よ。見よ。ヸヸーの健康なる身體を。聞け。聞け。ヸヸーの氣焔を。

十二月 四日（木）五日（金）六日（土） 三日間

有樂座

棧敷。一圓五十錢。土間。一圓。

切符申込所

とりで社興行部

下谷區上根岸町七十九・電話下谷三九六九番

スバル

第五年第拾壹號

特價四拾錢
郵稅貳錢

拾壹月特別號要目

雁（小說）……森鷗外
歌
夜半の空中飛行（感想）……地下一尺生
歌……原阿佐緒・原田琴子
戰爭中（戲曲）……ビヨルンソン作・小野秀雄譯
送葬の歌（小說）……ズーデルマン作・萬造寺齋譯
詩……與謝野寛・與謝野晶子・芳野由々・佐藤春夫・萬造寺齋
藝術座評……岡田八千代
「白き手の獵人」を評す……久野庄平
金持の心配（小說）……小出修
むく鳥通信……無名氏
黃贈の花……小出生

東京市芝區芝公園五號地十二
昴發行所
電話芝四七七二

「東京朝日」記者 杉村楚人冠先生新著

ひとみの旅

三六判美本
定價六十錢
税郵八錢

長い足、鋭い眼、明な頭、太いペン、而して此書成る しかも山水の景を描かず、風月の樂を語らず、專ら現代を寫し、人間を論ず 併て、洛陽の紙價を貴からしめたる「大英遊記」以來の名文にして、又併て、發賣禁止の嚴命を蒙りたる「七花八裂」以來の奇著なり。

ベークマン原著
杉村縱横先生譯補

改訂増補 強肺術

好評二十版
定價四十錢
郵税六錢

肺病を恐るゝものは讀め、肺病に罹れるものは讀め、歐米に於ける最新式の肺力養成法を讀め、此書に六の特色あり。

第一、時間を要せざること。 第二、費用を要せざること。 第三、場所を要せざること。

第四、勞力を要せざること。 第五、言文一致なること。 第六、總ふり假名付なること。

故に男子は勿論、婦女小兒と雖も、容易に理解し容易に實行し、而して確實に其功を收め得べし。

東京小石川區原町六 振替東京一五八六六 丙午出版社

東京小石川區原町六 振替東京一三五三三 鷄聲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回發行

音樂

第四卷 第十一號

十一月號要目

- 樂壇時評 …… 村田寛貞
- 音響學及び音響心理學上の學説研究 …… 田邊尚雄
- 樂律の構成法を容易に示す新案器械 …… 乙骨三郎
- 邦樂と洋樂と（二） …… 三谷綠二
- 唱歌教授の形式的段階 …… 草川宣雄
- 音樂教授法 …… 黑田誠
- グノーのマルガレーテ …… 佐久間昇夫
- ロッシーニ …… 黑田誠
- 通俗演奏會に就き音樂學校諸氏に望む …… 田邊尚雄
- 音階の話
- 海内樂壇、海外樂壇
- 編輯室より
- 「太陽を思ひをけう」を讀みて …… 高折周一

口繪
- ツイーにホイールの扮せるアッチエーナ
- ゲルリレー・オーバーの扮せるアムネリウ
- ギーイルバごヤンクーさリック
- 逝ける大家 ダ井ツト ホッパー

- 節なき歌 …… 前田林外
- 赤い夢 …… 坂本潮郎
- 夜の居留地（詩）——三木露風氏へ …… 杉本貞
- われらが愛（詩） …… 高江秀宜
- われがた（詩） …… 杉本貞
- さみしき鳥（詩） …… 内海泡沫
- 秋（詩） …… 宮田碎花
- 短き詩三篇 …… 中川一政
- 相聞（歌） …… 尾山篤二郎
- こすらす（歌） …… 二けい
- 寂鮎（歌） …… 永田龍雄
- ヴンナの畔（歌） …… 大熊信行
- 林檎の赤く光る國へ …… 近藤義次
- 秋の調 …… 幽梨

■發行所 東京音樂學校學友會
振替口座 東京二〇六二番

■發賣所 神田雉子町 東京堂

■會員募集

半ヶ年會費壹圓參拾錢以上前納者は會友となり本會所催の演奏會に參聽し得べし

■十一月中に音樂學校の演奏會も開催さるべし會友は音樂學校所催の演奏會にも亦聽日に於て入場の便宜を得べし開催の日は追て下の新聞にて廣告すべし

■定價

一部 二十五錢
郵税 一錢五厘
半ヶ年 前金税共 一圓三十錢
一ヶ年 前金税共 二圓五十錢

毎月一日一回發行
一冊金二十五錢
郵稅金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百六十一號（十一月一日發行）

六冊前金郵稅共
金一圓五十錢
十二冊同上金二圓八十錢

戲曲「ギヨッツ」（ギヨオテ）……森鷗外譯
論評劇演出の根本問題……相馬御風
今秋の新劇壇……清浦青鳥
公衆劇團の調度につき……松居松葉
續無線電話（故團十郎の追善興行は）……室田武里
默阿彌著作解題……河竹繁俊
歌舞伎劇の脚本……伊原青々園
「秋の夕」（對話）……川村花菱

タイフーンの一員……坪內士行

「象引に關して」……平木白星
「與長心曲尺」について……榎本虎彥
歌舞伎座の小紅より……立花靜子
第五回舞踊研究會評……こぶし
未灰庵雜記……渡邊未灰
活動寫眞化せるワイルドと沙翁……吉山旭光
大小劇場（青々園。春浦）……

戲曲「白鳥の歌」（チエエホフ）……秦豐吉譯

東京本鄉湯島切通坂町書報社內
歌舞伎發行所
電話下谷二四八三 ● 振替口座一八一〇六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

郵税金二錢

假面

定價二十五錢

第二卷　十一月號　第九號

旅の男（戯曲グレゴリイ）……松田良四郎

質問（小説チエエホフ）……伊東六郎

お叩父さん（散文詩ネクラアソフ）……瀬戸義直

河の畔（小説ゴルキイ）……石井直二郎

故障（戯曲ベヤリング）……矢口達

挿畫

闇の舞踏（木版）……永瀬義郎

森のタヒテイの女……コオガン

愛蘭女流劇作家グレゴリイ……ケリイ

ウクライナの夜……クインジ

女の悩み……永瀬義郎

ブロンズの首……長谷川潔

眞理の忌避（評論）……中澤臨川

たそがれの粧容（長詩）……日夏耿之介

墓地の移轉（戯曲）……丘草太郎

兒殺犯（小説）……兒留閒造

第四日目の寂寞（長詩）……水野葉舟

半年前金郵税共一圓四十錢●同一ヶ年二圓七十錢

發賣元　東京神田錦町一丁目　振替東京四一二三番　中興館

毎月一回一日發行

十月一日發行

美術新報

第十二卷第八號

價特七拾錢
郵税三錢

美術新報定期增刊文展號目次

記事

第七回文展概觀　坂井犀水
第一部第一科評論　澤村專太郎
第一部第二科評論　河野桐谷
第二部評論　石井柏亭
第三部雜感　朝倉文夫
新歸朝者の文展評　梅原良三郎　武内鶴之助　安田稔
入選諸家の最も興味を感じたる作品　入選諸氏
同人雜感　犀水　寒壺子　浦洸
梅原良三郎氏の作品に就て　木下杢太郎
秋季の諸展覽會、時報等　寧堂

繪畫

夕月夜（絹刷アアトタイプ）　川合玉堂筆
滯船（原色版）　石井柏亭筆
松林仙閣（原色版）　松林桂月筆
春さき（原色版）　南薫造筆
夏（アアトタイプ二度刷）　山元春擧筆
魚を持て來て呉れた海女（原色版）　坂本繁二郎筆
夕榮（アアトタイプ）　榊原紫峰筆
下紫蔦紅（アアトタイプ）　寺崎廣業筆
殘雪（アアトタイプ）　長原孝太郎筆
夕映の流れ（アアトタイプ）　齋藤豐作筆
坑内の女（細目版）　藤井浩祐作
（外に細目版挿畫六十圖）

發行所　東京本郷湯島切通　畫報社　電話本局二四八三番　振替口座一八一一六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■■ 叛逆者の藝術 ■■

第二卷 第二號

近代思想

十一月號 金十錢

■獨善主義者に（詩）……クッヘビー
■潜在能力（評論）……安成貞雄
■胡麻塩頭（雜錄）……堺利彦
■伊庭孝一座（批評）……寒村
■近代思想第一卷合本 金壹圓
■猿（小說）……德永保太郎
■獅子と兎（小話）……安成二郎
■小川巡査（小說）……生
■虐殺の翌朝（小說）……荒畑寒村

東京府下大久保町 近代思想社 振替東京一七一六三

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢(郵税壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特等三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢切手に限る(但し一割増のこと)。
■編輯事務、雜誌購讀、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■販賣に關する一切の事務は尚文堂へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正二年十月二十八日印刷納本
大正二年十一月一日發行

東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三
青鞜社内
編輯兼發行人 中野初

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷人 佐藤保太郎

東京市京橋區新榮町二丁目廿一番地
印刷所 文祥堂

禁轉載

編輯所 東京府下巣鴨町字巣鴨一一六三 青鞜社 振替東京二一一一六番

發賣所 東京市神田區南神保町十六番地 尚文堂書店 電話本局四二五四番 振替東京一九三四四番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年9月15日発行　【第5回配本】

青　鞜　第　3　巻　11月号

編著者	平塚　らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印　刷	江明印刷
製　本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
V.3
NO. 11

University of Colorado at [redacted]
[redacted]04 6746806

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可 第三巻

"The history of human growth and development is at the same time the history of the terrible struggle of every new idea heralding the approach of a brighter dawn. In its tenacious hold on tradition, the Old has never hesitated to make use of the foulest and cruelest means to stay the advent of the New. . . . . . Nor need we retrace our steps into the distant past to realise the enormity of opposition, difficulties, and hardships placed in the path of every progressive idea."

— E. GOLDMAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER